

平成12年度(2000年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成12年度

日田市埋蔵文化財年報

日田市教育委員会



発刊にあたって

平成12年度の埋蔵文化財調査は市内各所において行われ、縄文時代から中世までの多くの遺跡が発見されました。

なかでも長者原遺跡の調査では、弥生時代後期の環濠と共に、古墳時代中期の竪穴式石室や石棺墓が発見され、日田市の歴史を考える上での大きな成果をあげることができました。

近年の開発事業に伴う埋蔵文化財の調査は増加の一途をたどっており、今後さらにこの傾向は続くことが予想されますが、今後も開発者に対して埋蔵文化財への理解を求めると同時に、こうして明らかになった遺跡の現地説明や体験学習、そこから出土した遺物の展示等を通して、広く教育・文化の発展に寄与したいと考えております。

最後に、この1年間日田市の埋蔵文化財の調査および普及・啓発に、多大なるご指導・ご協力を賜りました。関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成13年10月

日田市教育委員会

教育長 後藤元晴

例 言

1. 本書は平成12年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
2. 本書には大分県教育委員会が日田市で行った埋蔵文化財保護事業の一部もあわせて掲載している。
3. 発掘調査における遺物・図面・写真類等の資料については日田市埋蔵文化財センターにて保管・展示している。
4. 受領図書は平成11年4月1日から平成12年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、あわせて日田市立博物館あての書物も掲載した。
5. 表紙の写真は長者原遺跡の空中写真、裏表紙は同遺跡発見の竪穴石室の写真を使用した。
6. 本書に掲載した図面の作成・製図は各担当が行い、受領図書一覧表の作成では伊藤一美氏の協力を得た。
7. 本書の執筆はⅠ-1)、Ⅱ、Ⅲを渡邊が行ったほかは、各調査担当が行った。
8. 編集は各担当者間で協議し、渡邊が行った。
9. 本書のうち、吹上遺跡・天満古墳群については日田市教育委員会で行ったが、昨年度に引き続き、別府大学下村智助教授に随時調査指導をいただき、執筆についてもお願いした。

目 次

発刊にあたって

Ⅰ 平成12年度埋蔵文化財調査事業	
1) 平成12年度の埋蔵文化財調査の概要	1
2) 発掘調査・確認調査の概要	4
3) 試掘・立会調査・照会の概要	37
Ⅱ 平成12年度の埋蔵文化財保護事業	
1) 三郎丸古墳の保存	40
2) 元大原宮宝篋印塔の修理・移築	41
Ⅲ 平成12年度の埋蔵文化財普及め啓発事業	
1) 長者原遺跡現地説明会	44
2) 大肥の郷で弥生時代の稲穂摘み体験	44
3) 平成12年度の刊行物の紹介	44
Ⅳ 平成12年度埋蔵文化財関係受領図書一覧	45

I 平成12年度の埋蔵文化財調査事業

1) 平成12年度の埋蔵文化財調査の概要

平成12年度発掘調査等の動向（表1）

平成12年度は公共・民間開発の事前照会件数は43件を数え、このうち前年度照会を受けたものも含め、試掘・立会い調査件数は29件、また試掘調査により発掘調査に至ったものも含めた発掘調査件数は17件にのぼった。

住宅造成や店舗建設に先立つ発掘調査は前年度と同件数の9件実施し、日田条里上手地区、長者原遺跡、手崎遺跡、本村遺跡2・3次、三和教田遺跡H区、高瀬条里永平寺、尾部田遺跡、元宮遺跡6次をそれぞれ実施した。

公共事業に伴う発掘調査の件数をみると近年増加傾向にある農業基盤整備関連事業に先立ち、大行事遺跡、大肥条里下河内地区、大肥条里吉竹地区、後迫遺跡の4ヵ所を実施し、また、このほか市道建設に伴い大波羅遺跡C・D・E区を実施した。遺跡保存を目的として吹上遺跡の5年次、天満古墳の4年次、及び重要遺跡の確認を目的として会所山遺跡の調査を行った。

さて、これらの動向を見てみると、照会、試掘・立会い調査件数は公共事業を除いて、前年度からやや減少しているのに対し、発掘調査件数は前年度と同件数を数えた。また、調査面積は総計約21254㎡を測り、調査員一人平均約7085㎡を調査したこととなった。これは前年度の約2.1倍にあたり、農業基盤整備関連事業の増加と人員体制の影響が顕著に表れている。現体制下での上限を示すとともに大規模開発事業対応への体制整備等多くの課題が提起されたといえる。

平成12年度の発掘調査の内容（表2、第1図）

本年度も旧石器時代の調査例はなく、縄文時代遺跡の調査では、長者原遺跡において早期の包含層が確認され、大肥条里下河内地区では前期の集石遺構、竪穴遺構、溝、土坑が検出された。大肥条里吉竹地区では後期の土坑、尾部田遺跡では晩期の住居跡が検出された。

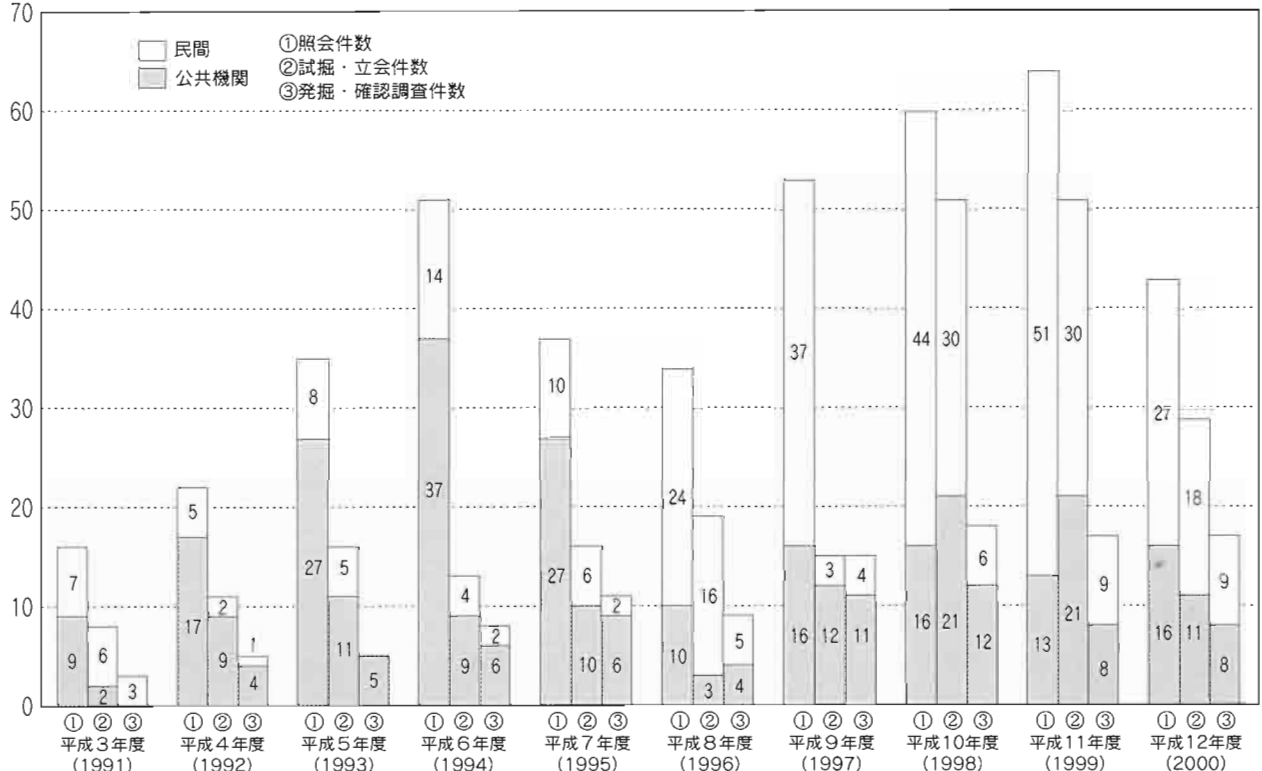
弥生時代遺跡の調査では、長者原遺跡4次において後期後半の環濠が検出され、環濠集落の存在が明らかとなった。吹上遺跡でも昨年度に確認された条溝の続きが検出されるとともに、条溝につながる環濠の存在が確認された。また、台地の裾部としては初めての調査例となった本村遺跡2・3次、尾部田遺跡では後期後半～終末期・古墳初頭の住居跡が大量に検出された。台地、丘陵上の遺跡と密接に関係していたと考えられる集落の存在が明らかになったことは、今後、当該時期の集落動向を考える上での重要な成果である。このほか、大波羅遺跡E区において杭を持つ溝、手崎遺跡では竪穴住居跡、後迫遺跡で中期から後期の竪穴住居跡等が検出されている。

古墳時代遺跡の調査では、長者原遺跡4次において前期から中期にかけての竪穴式石室、石棺墓等が検出された。また、手崎遺跡、本村遺跡2・3次、大行事遺跡、尾部田遺跡、大肥条里吉竹地区において集落跡が確認された。このほか天満古墳では、周溝の確認調査が行われた。

古代の遺跡の調査では、大波羅遺跡D区において墨書土器等の大量の遺物を含んだ包含層が検出され、昨年度調査のB区との関係が注目される。また、本村遺跡2・3次、大行事遺跡、尾部田遺跡、大肥条里吉竹地区では住居跡が確認されている。

中世遺跡の調査では、高瀬条里永平寺地区において13～16世紀の掘立柱建物跡が検出され、永平寺跡との関係を考える上での貴重な成果が確認された。また、日田条里上手地区5次でも掘立柱建物跡が発見されている。

表1 埋蔵文化財調査推移グラフ



調査員数	2	2	2	3	4	4	5	3 (4)	4	3 (4)
嘱託職員数	1	1	1	1	1	4	0	2	1	0

12

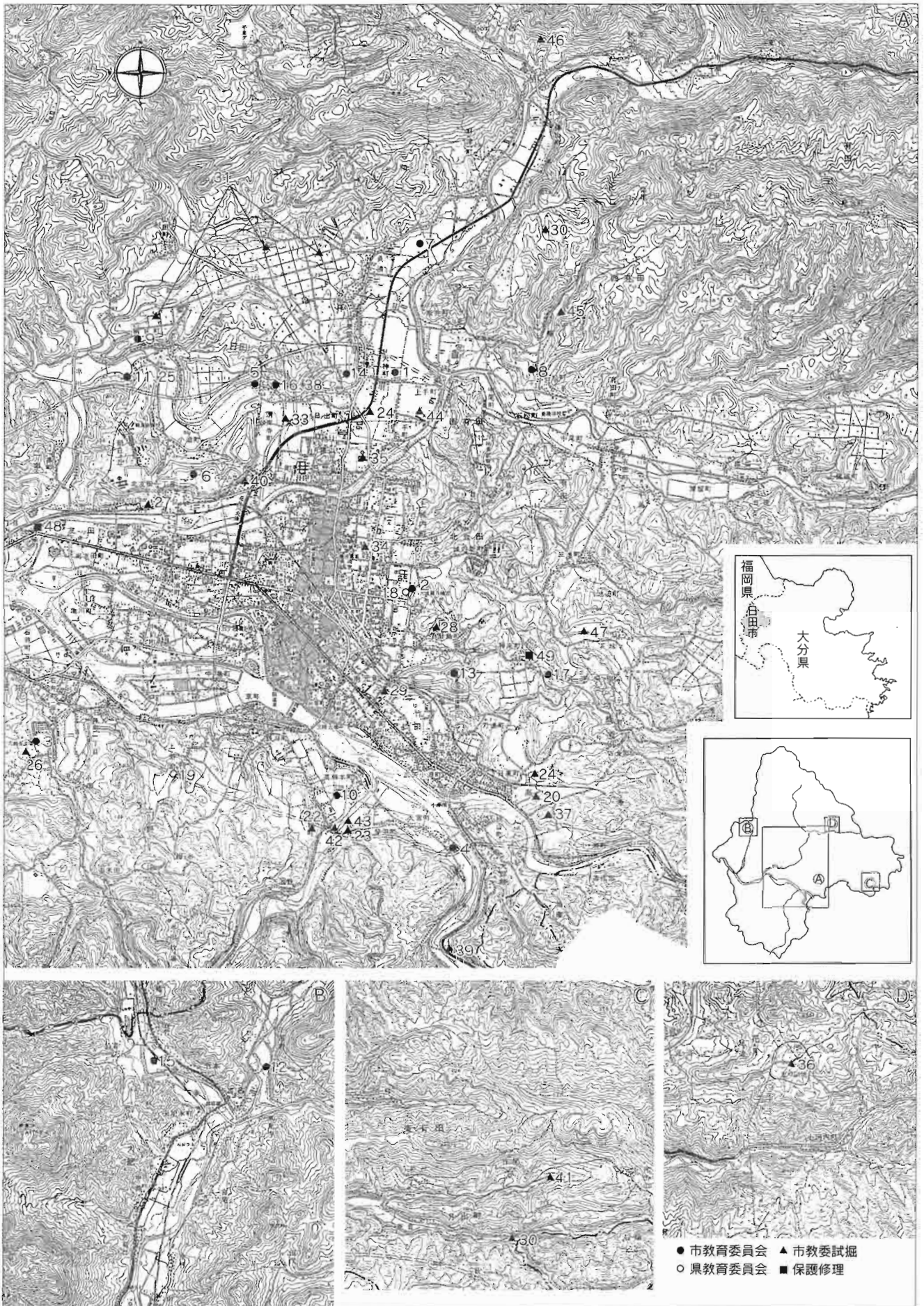
表2 平成14年度発掘・確認調査一覧表

日田市教育委員会

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
1	日田条里上手地区	三和字当根町12-1	宅地造成	540㎡	120417~120512	
2	大波羅遺跡C・D・E区	田島字大原180-1	道路建設	970㎡	120417~120808	
3	長者原遺跡	小山字沖原195-2	宅地造成	600㎡	120518~120810	
5	手崎遺跡	高瀬字手崎1225-1	展示場建設	294㎡	120618~120711	
5	本村遺跡2次	小迫字浄光院1164ほか	畑地改良	700㎡	120715~120721	
6	吹上遺跡11次	友田字吹上原1264-1ほか	確認調査	100㎡	120722~120811	
7	三和教田遺跡H区	三和字大塚2479-1ほか	地盤整地	1050㎡	120828~120913	
8	大行事遺跡	西有田字平等寺1193-4	農道建設	450㎡	120829~121120	
9	天満古墳	小迫字天神山1580ほか	確認調査	60㎡	120918~121003	
10	高瀬条里永平寺地区	高瀬字火ノ口663-1	宅地造成分譲	700㎡	121002~121115	
11	尾部田遺跡	小迫字尾部田808-1	宅地造成	700㎡	121205~121225	
12	大肥条里下河内地区	鶴河内字小原4414ほか	圃場整備	5950㎡	121204~130228	
13	会所山遺跡	日高字会所山53-1	確認調査	10㎡	121212~121218	
14	後迫遺跡	三和(里道)	農道改良	380㎡	130110~130323	
15	大肥条里吉竹地区	大肥字榎町453-1ほか	圃場整備	8270㎡	130129~130330	次年度継続
16	本村遺跡3次	渡里字本村936番4ほか	宅地造成	450㎡	130213~130328	次年度継続
17	元宮遺跡6次	求来里字堂園604-1	土砂採取	30㎡	130306~130312	

大分県教育委員会

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
18	大波羅遺跡2次	田島2丁目120-1ほか	法務局建設	450㎡	120710~120921	
19	上野第2遺跡	大字上野	国道建設	1400㎡	121023~121227	



平成12年度日田市内調査遺跡分布図 (1/50,000)

- 市教育委員会 ▲ 市教委試掘
- 県教育委員会 ■ 保護修理

2) 発掘調査・確認調査の概要

1. 日田条里上手5次 (HJ-NBT) -宅地造成に伴う発掘調査-

所在地 大字三和字当根町12-1ほか
担当者 若杉竜太

調査面積 536㎡
調査期間 120417~120512

遺跡の概要

遺跡は盆地北部の花月川の沖積地上に位置する。これまで遺跡周辺では数回の調査が行われ、日田条里上手地区1次調査では11~12世紀代の掘立柱建物8棟、同2次調査では11~12世紀代の掘立柱建物が5棟、15~16世紀代の掘立柱建物が2棟が見つかっている。

調査では調査区の南西隅に掘立柱建物2棟、調査区西側で土坑1基、柱穴多数を検出した。掘立柱建物はともに1間以上×1間以上の建物で、調査区外へ展開するものと考えられる。柱穴出土の遺物はなかった。しかし、包含層一括出土遺物には12世紀後半から13世紀前半の青磁・白磁碗、土師質土器碗が見られ、建物の時期もこれに該当すると思われる。土坑については上部が大きく削平されており、また、遺物の出土もなかったため、時期は不明である。

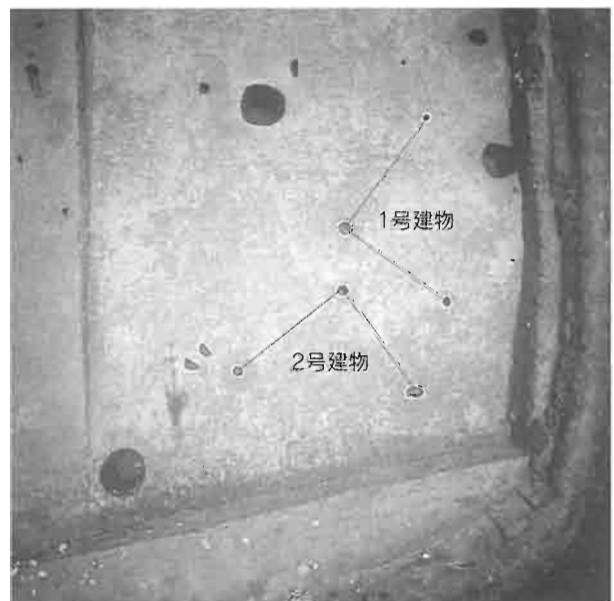
今回の調査で検出された掘立柱建物と時期の近い建物が、1・2次調査でも見つかっており、この時期の集落の広がりが窺える。また、調査区東側には大量の礫が堆積しており、これは花月川の氾濫によるものと考えられる。これまでに行われた花月川流域の調査では旧河道と考えられる流路跡も見つかっており、本遺跡で見つかった礫もその氾濫によるものと考えられる。その中で建物が検出された位置は、その氾濫を免れた微高地であり、そのような場所を選定して集落が営まれていたと考えられる。



遺跡位置図 (1/5,000)



空撮



掘立柱建物

3. 長者原遺跡4次 (HRS-4) -個人住宅建設に伴う発掘調査-

所在地 大字小山字沖原195-2ほか
担当者 若杉竜太・渡邊隆行

調査面積 600㎡
調査期間 120518~120810

遺跡の概要

遺跡は、三隈川左岸の通称長者原と呼ばれる標高約120mの台地上に位置する。遺跡の西約100mには装飾を持つ6世紀後半に築造された穴観音古墳がある。長者原遺跡ではこれまでの調査で、後期旧石器時代から近世にわたる遺構、遺物が見つかり、市内でも数少ない複合遺跡である。

調査では、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての環濠が3条、古墳時代前期から中期にかけての竪穴式石室や箱式石棺墓が7基検出された。また、調査区東側では縄文時代早期の包含層や集石を確認した。

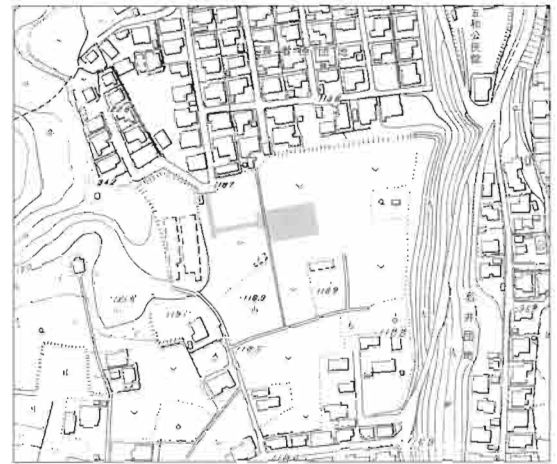
環濠は調査区東側で検出された。3条の環濠は、2号環濠が1号環濠を切り、3号環濠が2号環濠の埋土を掘り込んでおり、これら3条の環濠は調査区北側で重複する。1・2号環濠はともに断面Y字形を呈し、検出面での規模は1号環濠が最大幅約3.5m、深さ約3.3m、2号環濠が最大幅約3.5m、深さ約1.3mである。3号環濠は2号環濠の埋土を掘りこみ、断面逆台形を呈する。検出面での規模は幅約1.4m、深さ約0.8mである。1～3号環濠の時期については、埋土中出土の遺物より、それぞれ弥生時代後期前半、同後期中頃から後半、古墳時代初頭と考えられる。

古墳時代の墓は調査区の西側で6基、東側で1基が検出された。西側では1号墓から5号墓がほぼ東西に並び、5号墓の北側で6号墓が見つかった。7号墓は1号環濠の西側で検出された。1～3号墓は箱式石棺、4、5号墓が竪穴式石室、6、7号墓が箱式石棺、もしくは竪穴式石室である。1～3、6、7号墓は耕作による攪乱のため、棺身の一部が残存するのみであった。遺物は1号墓を除き、鉄鏃、刀子、鉄剣などが出土している。

このうち竪穴式石室である4、5号墓は、いずれも蓋石に凝灰岩製の大石を2枚使用し、その隙間を小ぶりな石で充填していた。石室内部はいずれも割石の小口積みで、石の隙間を埋めるように粘土が充填されおり、この壁体、粘土ともに赤色顔料が塗布されていた。床面は4号墓が粘土であるのに対し、5号墓は4枚の板石を使用していた。また、人骨が4号墓から2体、5号墓から1体出土した。4号墓の2体は攪乱により、骨の一部は散乱していたが、九州大学の田中良之教授の鑑定により、追葬によることが判明した。遺物は4号墓からは鉄鏃、小刀、管玉が出土したが、5号墓からは出土しなかった。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての環濠はそれぞれの深さは異なるものの、同じ場所にこのような環濠を作っていたことから、この地が立地条件に恵まれた場所であったことが窺える。調査区内からは、環濠の時期に当たる住居跡などは確認されていないが、本遺跡の1次調査で弥生時代後期前半頃の住居跡が確認されており、これらの住居が1号環濠に伴う可能性がある。

古墳時代の墓については、前期から中期にかけてのこの地域の首長墓とも捉えることができ、その系譜が6世紀後半に築造された穴観音古墳の被葬者に続いていく可能性も考えられる。(若杉)



遺跡位置図 (1/5,000)

2. 大波羅遺跡C・D・E区 (OHR) —市道建設に伴う発掘調査—

所在地 田島字大原180-1ほか
担当者 渡邊隆行

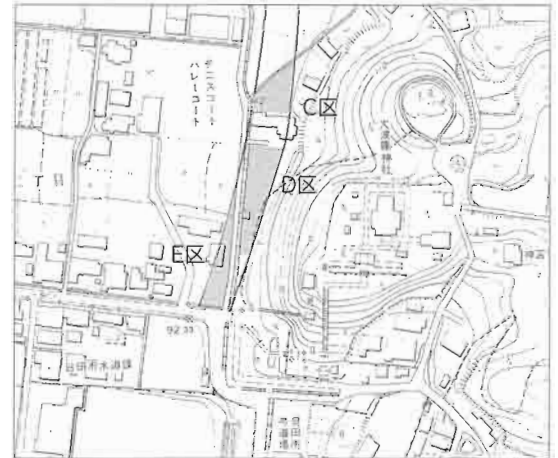
調査面積 970㎡
調査期間 120417~120808

遺跡の概要

遺跡は日田盆地東部に位置し、標高90~93mを測る。東側には大波羅丘陵があり、西側には沖積地が広がっている。周辺には北に慈眼山遺跡、佐寺原遺跡、上ノ馬場遺跡、東に赤迫遺跡、薬師堂山古墳、南には会所宮遺跡、法恩寺山古墳群などが所在する。

遺跡は道路建設に伴う発掘調査で、昨年度に引き続き、今年度はC・D・E区の調査を行った。C区では古代の溝1条、中世以降の土坑1基が検出され、D区では「田」銘の墨書土器と瓦片等、大量の土器が出土した古代の包含層、E区では弥生時代の溝4条、土坑1基、古代の溝1条が検出された。

発見された遺構・遺物から、遺跡は主に弥生時代から古代の時期幅があることが分かった。E区の4条の溝は出土遺物から弥生時代に属し、うち3条の溝から杭が検出されたことから、水利施設等の存在が窺える。隣接する2次調査区（大分県教育委員会調査）でも西側に向かって延びるこの溝の続きが検出されたことから、遺跡西側には水田関係の遺構の存在も想像され、今後の調査の課題と言える。古代の遺構ではC・E区の溝とD区の墨書土器と瓦が出土した包含層があり、古代の時期に遺跡周辺に集落が営まれた可能性が考えられるものの、昨年度調査のB区同様、集落としても特異な性格を持つものと判断される。特に包含層が出土したD区東側の丘陵の上にはなんらかの施設があったと想定される。



遺跡位置図 (1/5,000)



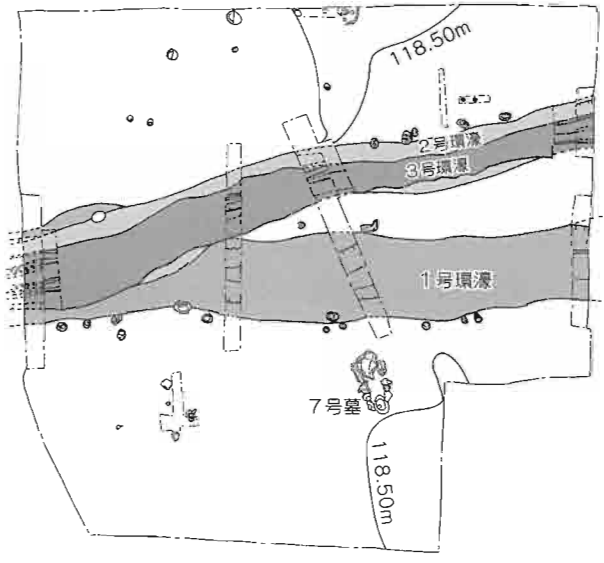
C・D・E区全景



E区全景



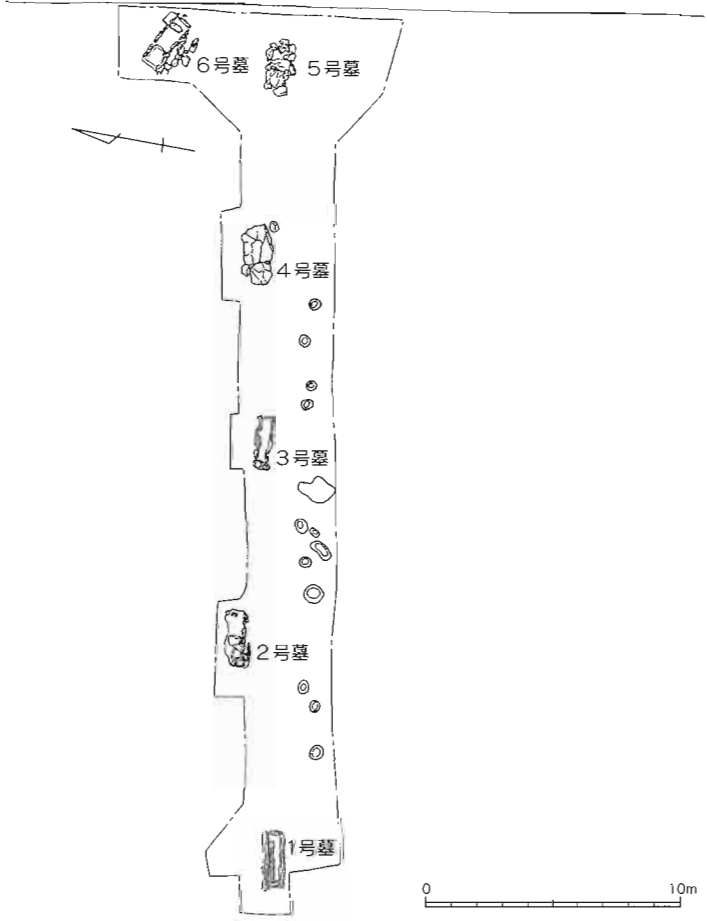
D区出土「田」銘墨書土器



空撮



環濠検出状況



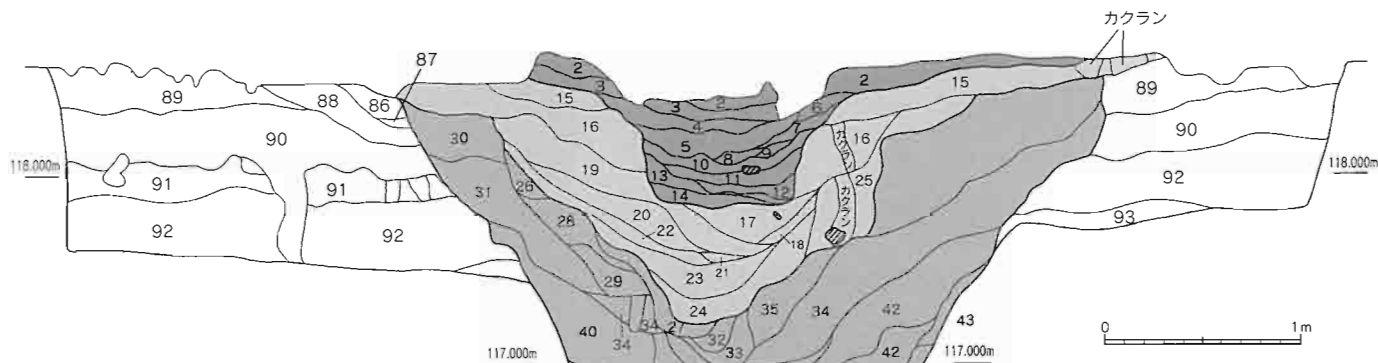
遺構配置図(1/300)



4号墓人骨出土状況



5号墓人骨出土状況

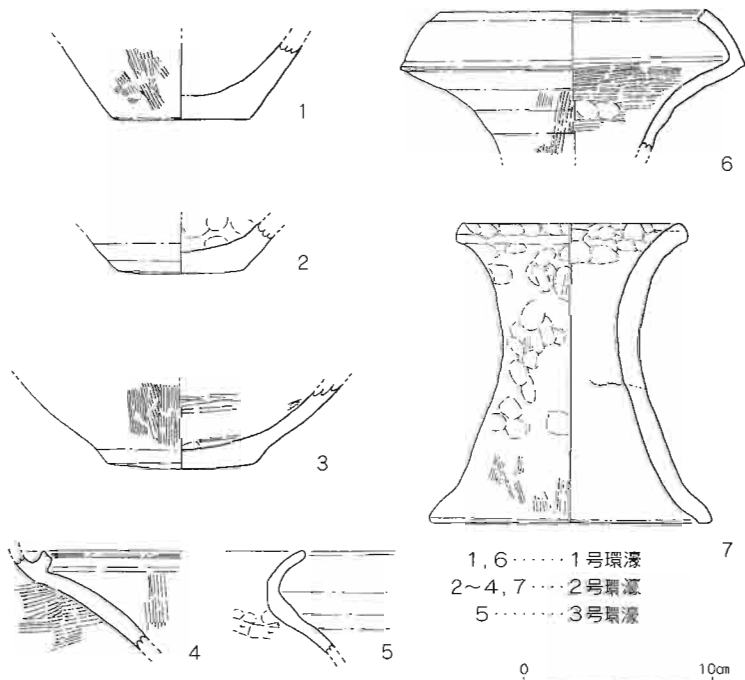


- 1号環濠
- 1層 暗茶褐色粘質土 耕作土
 - 2層 淡黒褐色粘質土 しまりなし。緻密。
 - 3層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。小礫含む。
 - 4層 暗褐色粘質土 固くしまる。
 - 5層 暗褐色粘質土 固くしまる。土器・小礫含む。
 - 6層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。小礫含む。
 - 7層 淡黒褐色粘質土 固くしまる。小礫含む。
 - 8層 淡黒褐色粘質土 しまりなし。小礫含む。
 - 9層 暗褐色粘質土 固くしまる。黄褐色土含む。
 - 10層 淡黒褐色粘質土 固くしまる。
 - 11層 暗褐色粘質土 しまりなし。小礫・砂礫含む。
 - 12層 淡黒褐色粘質土 固くしまる。小礫含む。
 - 13層 暗褐色粘質土 固くしまる。小礫含む。
 - 14層 淡暗褐色粘質土 固くしまる。
 - 15層 淡黒褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 16層 暗褐色粘質土 固くしまる。
 - 17層 暗茶褐色粘質土 固くしまる。
 - 18層 褐色粘質土 固くしまる。
 - 19層 暗茶褐色粘質土 固くしまる。
 - 20層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。2,3cm大の礫含む。
 - 21層 淡黒褐色粘質土 しまりなし。
 - 22層 暗褐色粘質土 しまりなし。黄褐色土ブロック含む。
 - 23層 淡暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 24層 暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 25層 淡暗褐色粘質土 固くしまる。礫含む。
 - 26層 暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 27層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。
 - 28層 淡暗茶褐色粘質土 しまりなし。
 - 29層 暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 30層 褐色粘質土 固くしまる。
 - 31層 淡茶褐色粘質土 しまりなし。
 - 32層 暗黄褐色粘質土 固くしまる。礫含む。
 - 33層 暗黄褐色粘質土 固くしまる。礫大層に含む。
 - 34層 淡黒褐色粘質土 固くしまる。礫含む。
 - 35層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 36層 暗黄褐色粘質土 固くしまる。礫大層に含む。
 - 37層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。
 - 38層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。3,4cm大の小礫含む。

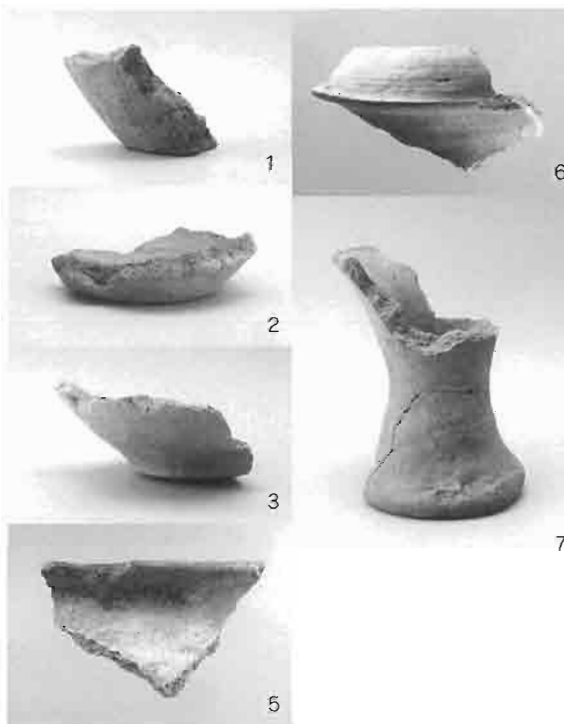
- 1号環濠
- 39層 暗褐色粘質土 しまりなし。炭含む。
 - 40層 暗褐色粘質土 固くしまる。3,4cm大の小礫含む。
 - 41層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。
 - 42層 淡黄褐色粘質土 しまりなし。
 - 43層 黄褐色粘質土 崩落土。しまりなし。
 - 44層 褐色粘質土 しまりなし。
 - 45層 暗褐色粘質土 しまりなし。下部に炭を含む。
 - 46層 褐色粘質土 しまりあり。3,4cm大の小礫含む。
 - 47層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。礫大層に含む。
 - 48層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。2,3cm大の礫含む。
 - 49層 暗褐色粘質土 しまりなし。炭少量含む。
 - 50層 淡暗褐色粘質土 しまりなし。1cm前後の礫含む。
 - 51層 淡黒褐色粘質土 しまりなし。小礫含む。
 - 52層 褐色粘質土 しまりなし。
 - 53層 淡暗褐色粘質土 黄褐色土ブロック含む。
 - 54層 黄褐色粘質土 崩落土。しまりなし。

- 1号環濠
- 55層 明褐色粘質土 しまりなし。
 - 56層 暗赤褐色粘質土 しまりなし。炭含む。
 - 57層 暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 58層 淡褐色粘質土 しまりなし。
 - 59層 暗褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 60層 褐色粘質土 しまりなし。炭含む。
 - 61層 暗赤褐色粘質土 しまりなし。
 - 62層 淡暗褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 63層 暗赤褐色粘質土 しまりなし。
 - 64層 暗茶褐色粘質土 しまりなし。
 - 65層 淡暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 66層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。
 - 67層 明褐色粘質土 しまりなし。黄褐色土ブロック含む。
 - 68層 暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 69層 淡褐色粘質土 しまりなし。
 - 70層 明茶褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 71層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。砂礫多く含む。
 - 72層 暗褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 73層 淡黒褐色粘質土 しまりなし。黄褐色土ブロック含む。
 - 74層 暗褐色粘質土 崩落土。しまりなし。
 - 75層 淡褐色粘質土 しまりなし。炭少量を含む。
 - 76層 明褐色粘質土 しまりなし。
 - 77層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。
 - 78層 淡明褐色粘質土 しまりなし。炭含む。
 - 79層 淡茶褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 80層 淡黄褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 81層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。
 - 82層 褐色粘質土 しまりなし。
 - 83層 淡暗褐色粘質土 礫層。
 - 84層 淡褐色粘質土 礫層。
 - 85層 暗茶褐色粘質土 礫層。
 - 86層 暗黄褐色粘質土 しまりなし。礫含む。
 - 87層 暗茶褐色粘質土 固くしまる。炭含む。
 - 88層 暗褐色粘質土 しまりなし。
 - 89層 暗褐色粘質土 固くしまる。炭・礫土・小礫含む。
 - 90層 淡暗褐色粘質土 固くしまる。炭礫層。
 - 91層 暗褐色粘質土 固くしまる。炭礫層。
 - 92層 暗褐色粘質土 固くしまる。炭礫層。
 - 93層 黄褐色粘質土 ローム層。

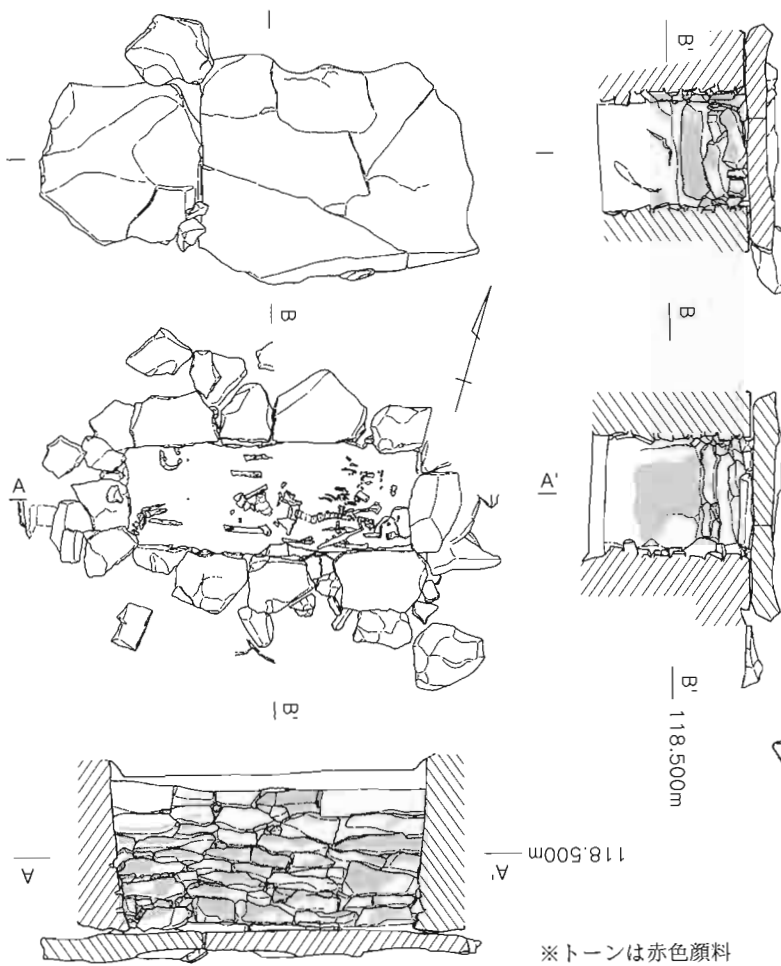
1号環濠土層断面図(1/40)



環濠出土土器実測図

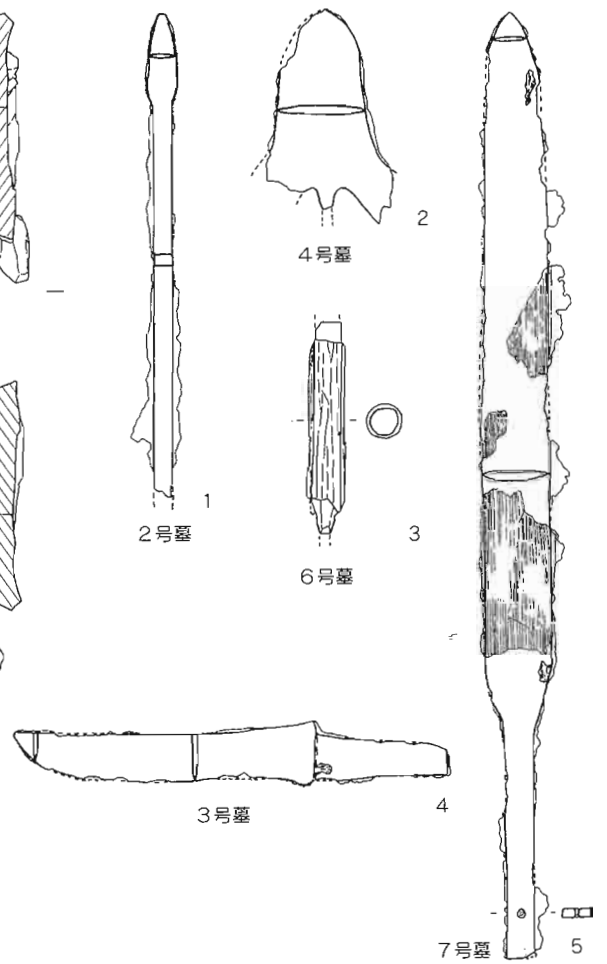


環濠出土土器 (番号は実測図と一致)

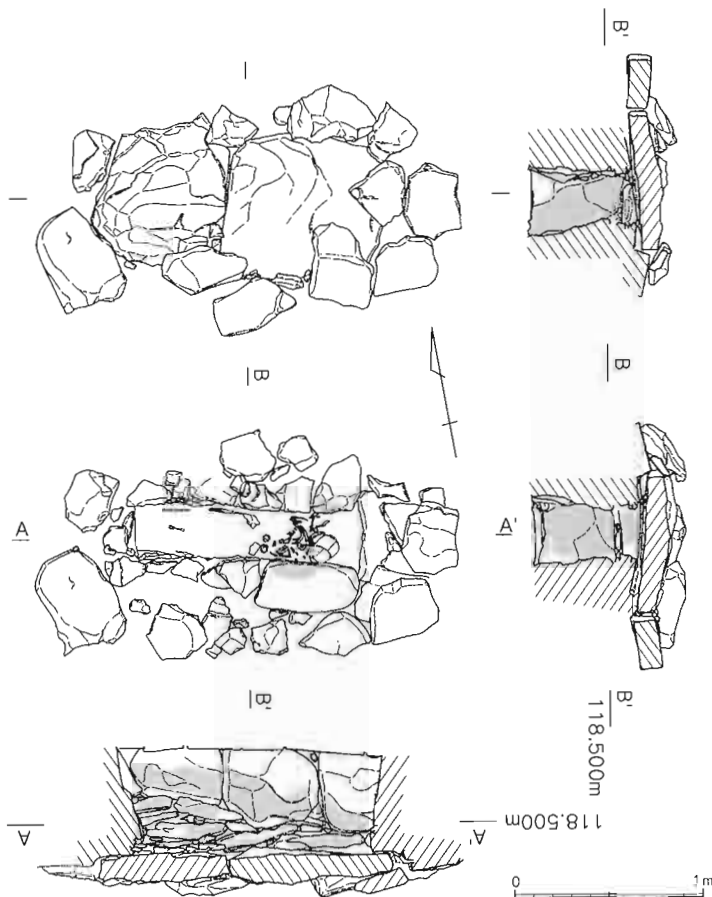


4号墓実測図 (1/40)

※トーンは赤色顔料

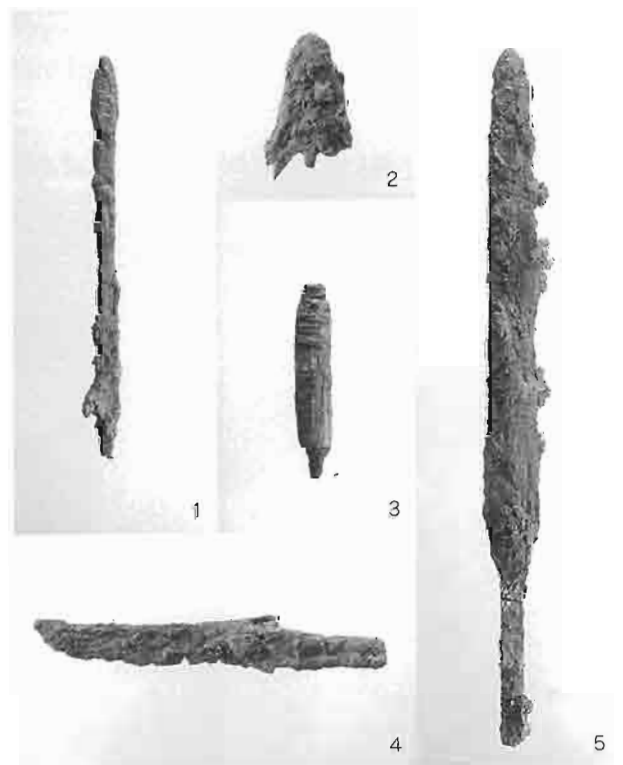


墓出土遺物実測図 (1/2、5のみ1/3)



5号墓実測図 (1/40)

※トーンは赤色顔料



墓出土鉄器 (番号は実測図と一致)

4. 手崎遺跡2次 (TSK) -店舗建設に伴う確認調査-

所在地 日田市大字高瀬字手崎1225-1外3筆
担当者 行時志郎

調査面積 294㎡
調査期間 120618~120711

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地南部の大山川沿いの河岸段丘上に立地する。調査区に隣接する東側は、国道210号バイパス建設に伴い発掘調査が実施され、縄文時代後期中頃の西平式土器が多数出土した竪穴住居跡や弥生時代後期後半から終末、古墳時代前期後半から古墳時代後期、古代の各時期の竪穴住居跡、中世前期の墓など各時期の遺構が多数検出されている。

調査では、開発予定地内に4本のトレンチを入れ、遺構の広がりを見るための確認調査を行った。その結果、1・2トレンチから古墳時代後期と考えられる竪穴住居跡が3軒検出され、また4トレンチからは、大部分水田により削平されてはいたが、弥生時代の遺物を含んだ竪穴住居跡が1軒検出された。また、縄文時代の遺物は少量ながら出土したものの遺構については確認することができなかった。

調査の成果として、4本のトレンチからは4軒の竪穴住居跡が検出されたものの、1次調査区に比較し、遺構の密度は薄かった。また、縄文時代の遺構もはっきりその存在を確認するには至らなかったが、遺物の量が少ない点からみて遺構は2次調査区までは広がらない可能性が高いと考えられる。これらのことは、1次調査区から2次調査区へ向かって地形的に勾配が少しずつ急となり、2次調査区からさらに東側にむかって傾斜がきつくなっている状況を考えれば、河川の氾濫を考慮して集落立地をなるべく高い位置に構えていたためではないかと推測される。また、隣接する1次調査区F区の西側では今回の2次調査区同様、遺構はやはり希薄であり、さらに西側のF区谷調査区では古墳時代以前の山際の湧水点から広がる旧流路も確認されており、こうした当時の自然地形にも制約されていた可能性が高いと考えられる。



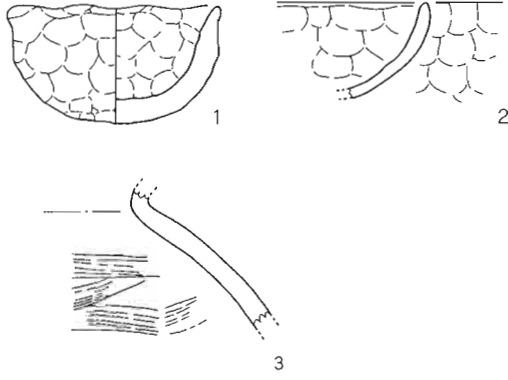
遺跡位置図 (1/5,000)

《参考文献》 田中祐介編「手崎遺跡」日田市高瀬遺跡群の調査2 大分県教育委員会 1998



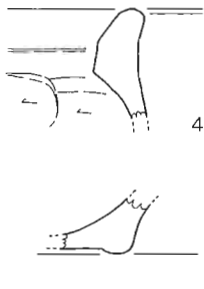
手崎遺跡全景

1トレンチ 1号住居跡出土遺物

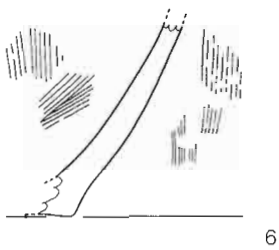


国道210号線バイパス

2トレンチ出土遺物

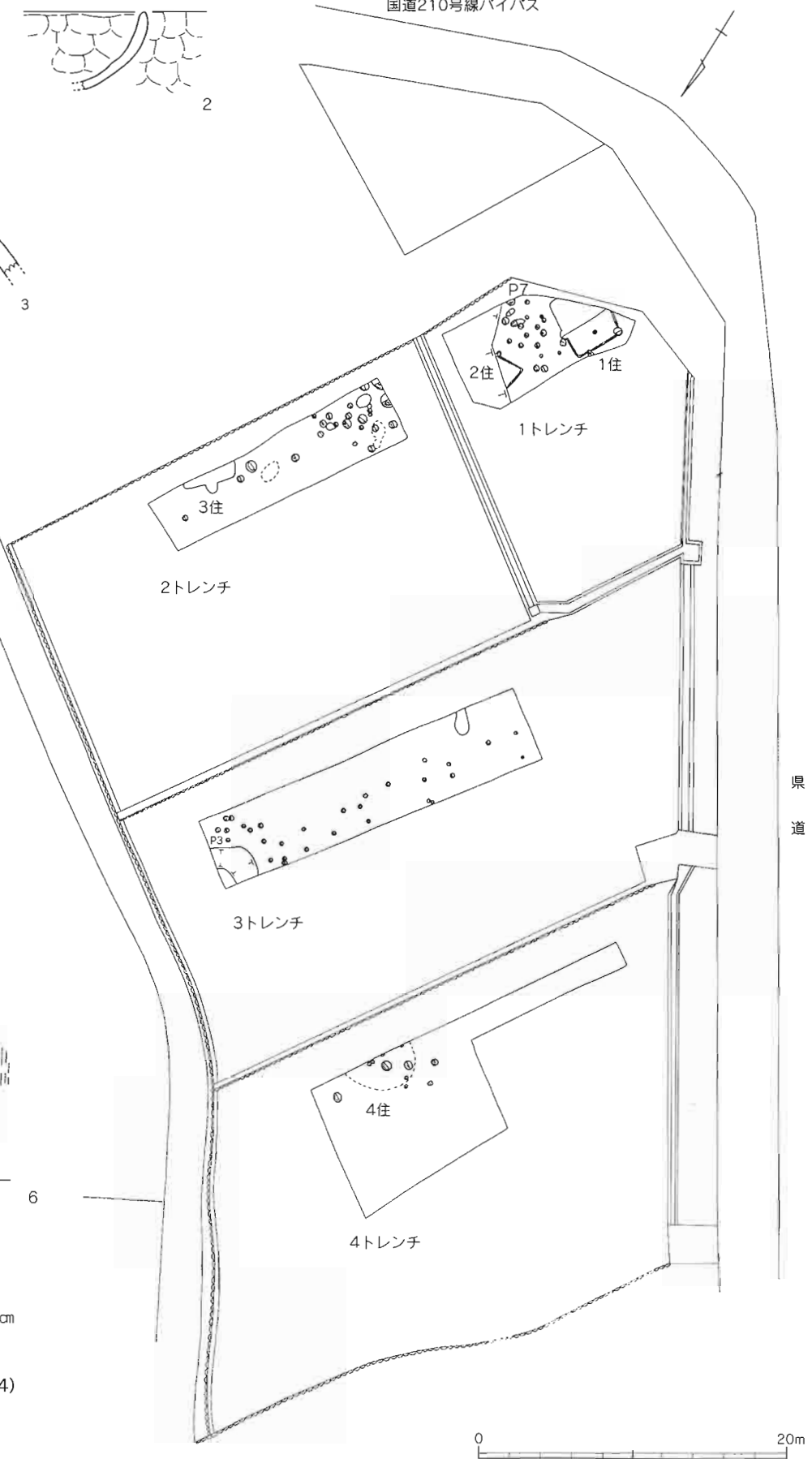


3トレンチ出土遺物



0 10cm

手崎遺跡出土遺物実測図 (1/4)



県道

0 20m

手崎遺跡全体図 (1/400)

5. 本村遺跡2次 (HMN) —畑地改良工事に伴う発掘調査—

所在地 小迫字浄光院1164、1165-3
担当者 行時志郎・渡邊隆行

調査面積 700㎡
調査期間 0715~0721

遺跡の概要

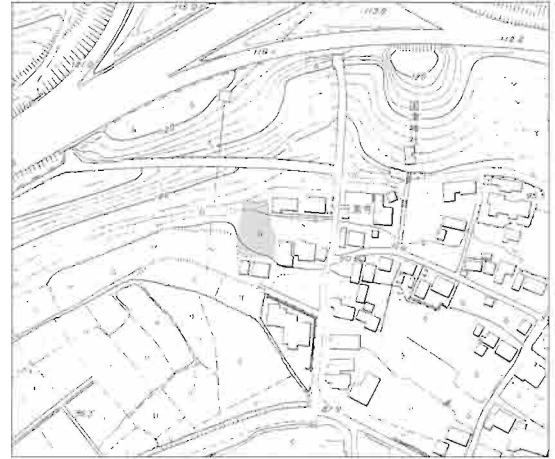
遺跡は、日田盆地北部の辻原台地と吹上台地に挟まれ、「S」字状に細長く延びる谷部の入り口付近にあたり、台地の裾部に位置する。

本村遺跡の北西部にあたる辻原台地には、古墳時代初頭の環溝居館が発見された小迫辻原遺跡、南西部にあたる吹上台地には弥生時代中期の首長墓や後期の環濠集落が発見された吹上遺跡が、またやや北側の丘陵上には弥生時代後期から古墳時代前期の墓地が主体を占める草場第2遺跡が存在する。

調査の成果として、弥生時代の竪穴住居跡4軒、古墳時代の竪穴住居跡2軒、溝1条、掘立柱建物跡3棟、古代の竪穴住居跡2軒、近世の溝1条、墓2基などが検出された。

これらの遺構のうち、弥生時代の住居跡はいずれも「タタキ整形」を行った長胴甕などが主体でいずれも後期後半から終末にかけての時期の特徴を備えていた。この時期は、吹上遺跡の環濠集落が形成され、また小迫辻原遺跡でも環溝居館がつくられる前段階での集落形成期にあたり、また草場第2遺跡における甕棺墓群の時期にあたるなど、周辺部の台地や丘陵上の遺跡と密接に関係していた可能性が考えられる。とくに、今回谷部において当該時期の集落が確認されたことは、それまで台地上でしか捉えることのできなかったこの時期の集落の動向を、谷部も含めた新たな視点の中で総合的に検討していく必要性が明らかになった点で重要な成果を得たものと考えられる。

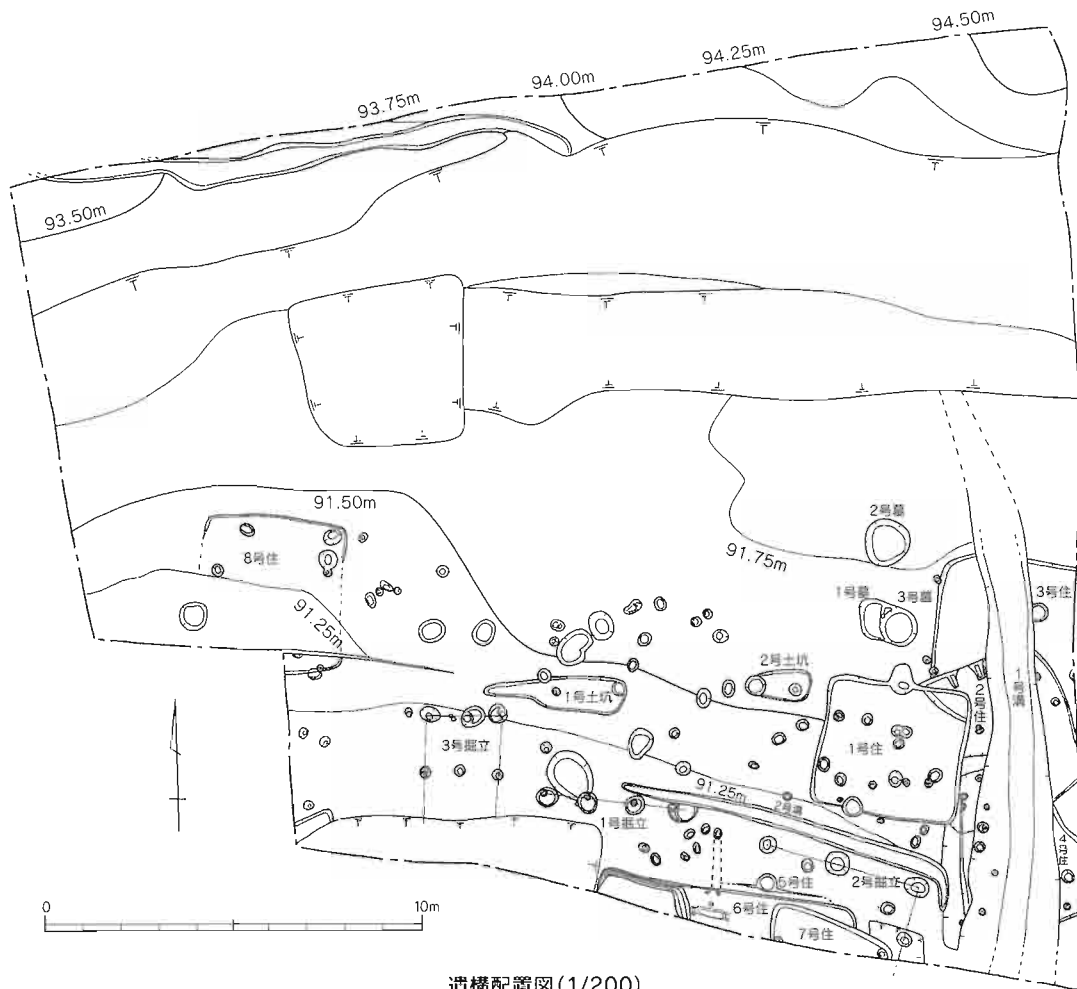
また古墳時代の住居跡は、須恵器の特徴から6世紀代と考えられ、この地域でははじめて発見された。この谷部を囲む台地斜面には、当該時期を中心とする多数の横穴墓群が形成されており、裾部一带にこの時期の集落が広がっている可能性も伺われ、この時期の集落と墓地との関係を今後検討する上での参考となろう。さらに、古代の住居跡は、須恵器の特徴から、7世紀後半から8世紀代にかけての時期と考えられるが、これまで市内の調査された遺跡では、古墳時代後期から7世紀代の時期を越えて8世紀代まで同じ場所で集落が継続するのははじめての例で、これが一般的であるのか否か、今後他地域でのこの時期の集落のあり方を比較する上で意味をもつと考えられる。また、中世墓3基はいずれも人骨の出土はなく、円形の掘り方をしており木棺墓と推測される。中からはそれぞれ完形の土師質土器皿数枚などが出土した。地名として字「浄光院」が残っているが、地元の方の話によると、この地点より西側に約200mほどの位置に、かつて寺院があったと伝えられている。そうだとすれば、その寺院に関連してつくられた墓で、寺領の東端に墓地が営まれたと考えることができる。その境が、調査区の東側で、南北方向に延びる溝であった可能性があり、このことは、調査区を境に大字や小字が異なっていることも一つの根拠として考えられる。(行時)



遺跡位置図 (1/5,000)



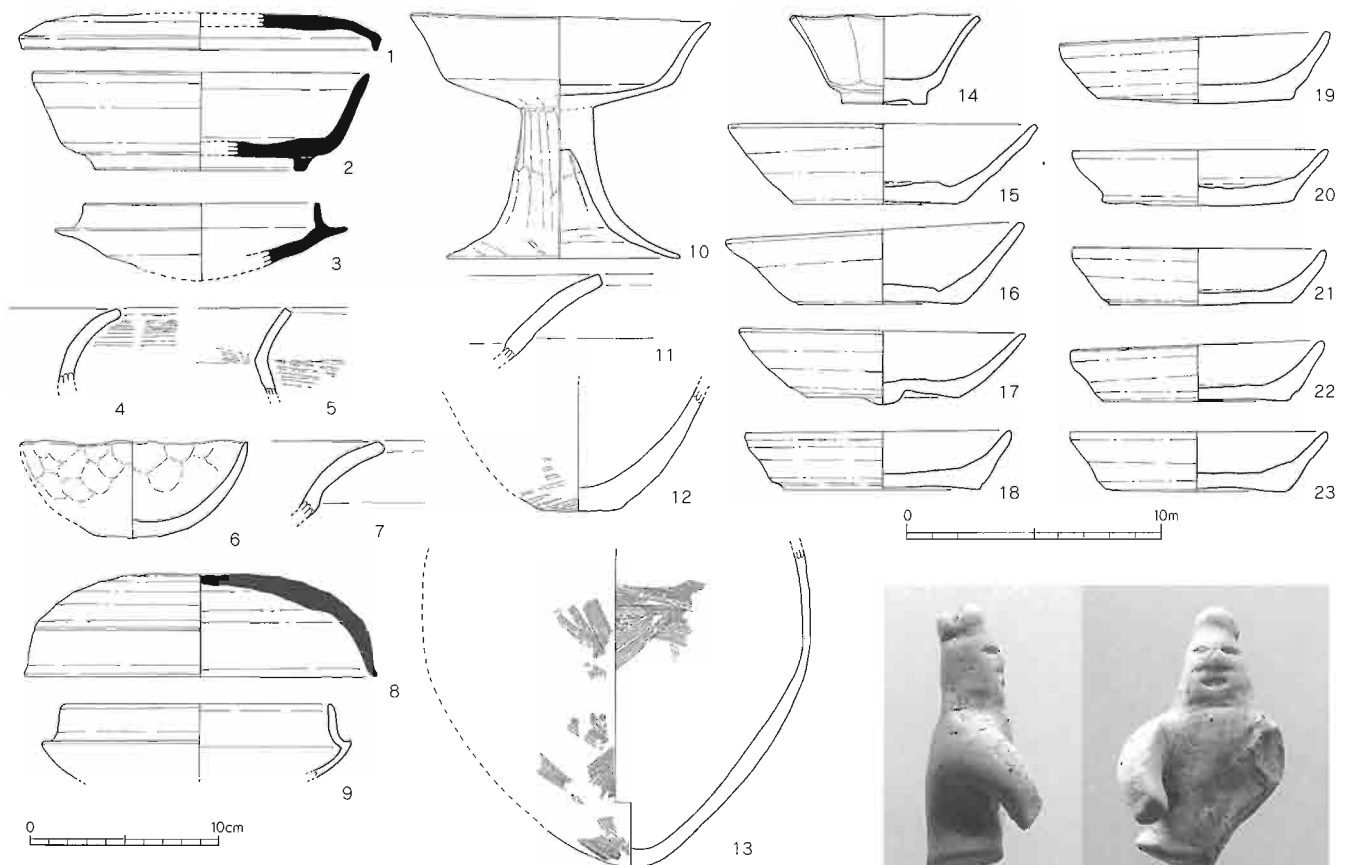
掘立柱建物



※出土遺物

- 1、2……1号住居跡
- 3、4……2号住居跡
- 5……3号住居跡
- 6、7……4号住居跡
- 8~10……6号住居跡
- 11~12……7号住居跡
- 13……8号住居跡
- 14~17……1号墓
- 18~20……2号墓
- 21~23……3号墓

遺構配置図(1/200)



出土遺物実測図 (1/3、4、5、7、10~12は1/4縮小)

1号溝出土土人形

6. 吹上遺跡 (FKA) 11次調査 - 遺跡の範囲確認調査 -

所在地 大字小迫字吹上原1264-1ほか
担当者 行時志郎・下村 智 (別府大学)

調査面積 122.5㎡
調査期間 0724~0811

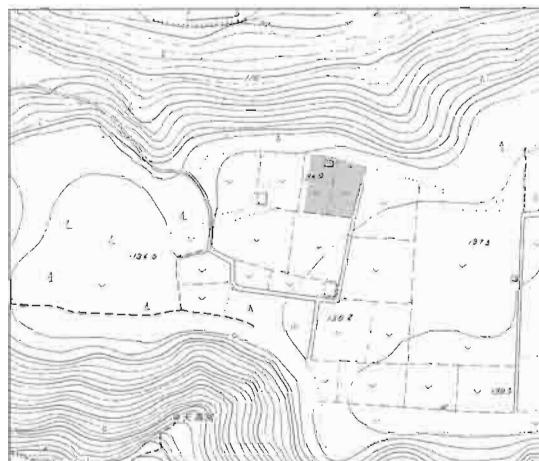
遺跡の概要

吹上遺跡は三隈川支流の花月川と二串川に挟まれた標高140mの阿蘇溶岩台地上に立地する。日田盆地の北部に位置し市街地を一望することができる。この遺跡ではこれまで10次の調査が行なわれ、平成7年度の6次調査では、弥生中期後半に属する大型成人用甕棺墓8基、木棺墓3基が発見され、青銅武器、鉄製武器、南海産貝輪、玉類などの副葬品が出土し、県内初の特定集団墓の存在が明らかとなり注目された。

今回の11次調査は、6次調査以後の遺跡の保存を目的とした確認調査の5年目にあたり、10次調査で確認された環濠もしくは条溝の一部と考えられる大溝の延長と性格を検討するため、10次調査の北側約70mの地点にトレンチを設定して調査を行なった。この地点は台地北側の縁辺部にあたる

ところで、都合7本のトレンチを入れて調査したところ、溝2条、竪穴住居址1軒、方形貯蔵穴1基、袋状貯蔵穴2基、土壇4基、ピット30穴などが確認された。

第1トレンチで検出された溝 (SD01) は、幅1.4m前後、深さ0.8mを測り、断面「V」字状を呈している。10次調査区で出土した大溝 (SD100) の推定延長線上にあたり、一連の溝の可能性がきわめて高いと判断された。幅及び深さが10次調査区と比較すると小さな値になっているが、10次調査区よりも基盤が0.5m程削平されているので、それを加味すればほぼ同じ規模になる。溝の底のレベルは大体同じであった。このSD01の延長を確認するため、さらに北側に第2・第3トレンチを設定した。これらのトレンチでも溝の延長が確認された。ただし、北側に行くに従い幅が狭く、底が浅くなっている。第4トレンチは台地北端部のガケ落ち際に設定したトレンチで溝の末端を確認するために設定したものである。ところが、このトレンチではSD01の延長は検出されず、東西方向に走る別の溝 (SD04) が検出された。幅0.3m、深さ0.2m程度の浅い溝である。そこで、SD01の溝が途中で終るのか曲るのかを確認するためにさらに第5~第7トレンチを設定し確認に努めた。その結果、第7トレンチでSD01は東西方向に走る大溝と「T」字状に接合していることが判明した。東西方向の溝の延長は第5トレンチで大型遺構に切られる形で一部検出されているので、台地



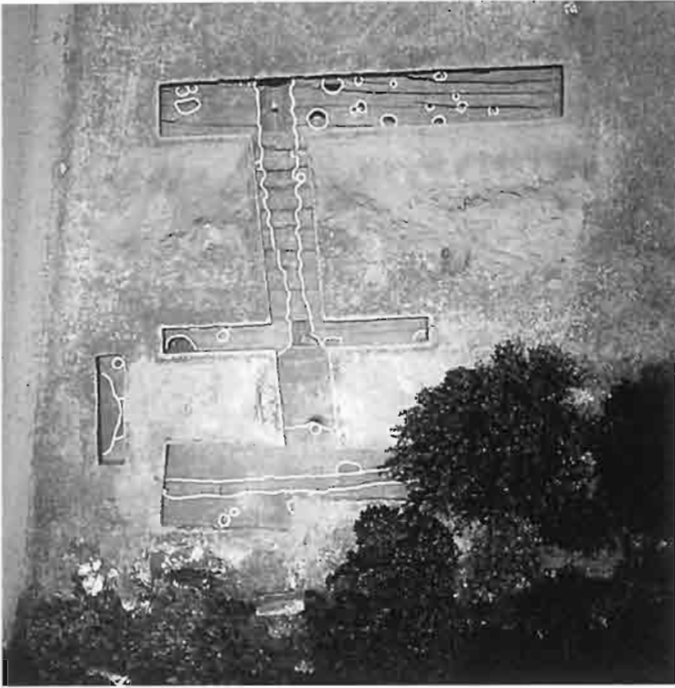
遺跡位置図 (1/5,000)



SD01検出状況



SD01遺物出土状況



第11次調査区全景

縁辺部を取り囲むように延びる環濠の可能性がある。

竪穴住居址（SC02）は第1トレンチ東側で検出された。削平が激しく、かつ部分的な調査であったので細かいことは分からないが、径6～7mの円形に復元できそうである。内側には柱穴の切り合いが多くみられ、出土遺物には甕の底部や丹塗りの高坏片などがある。弥生中期前半代のものであろう。

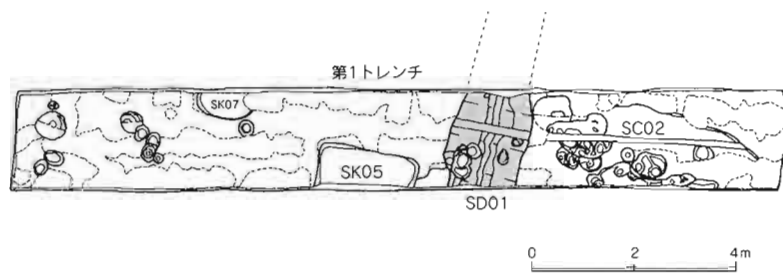
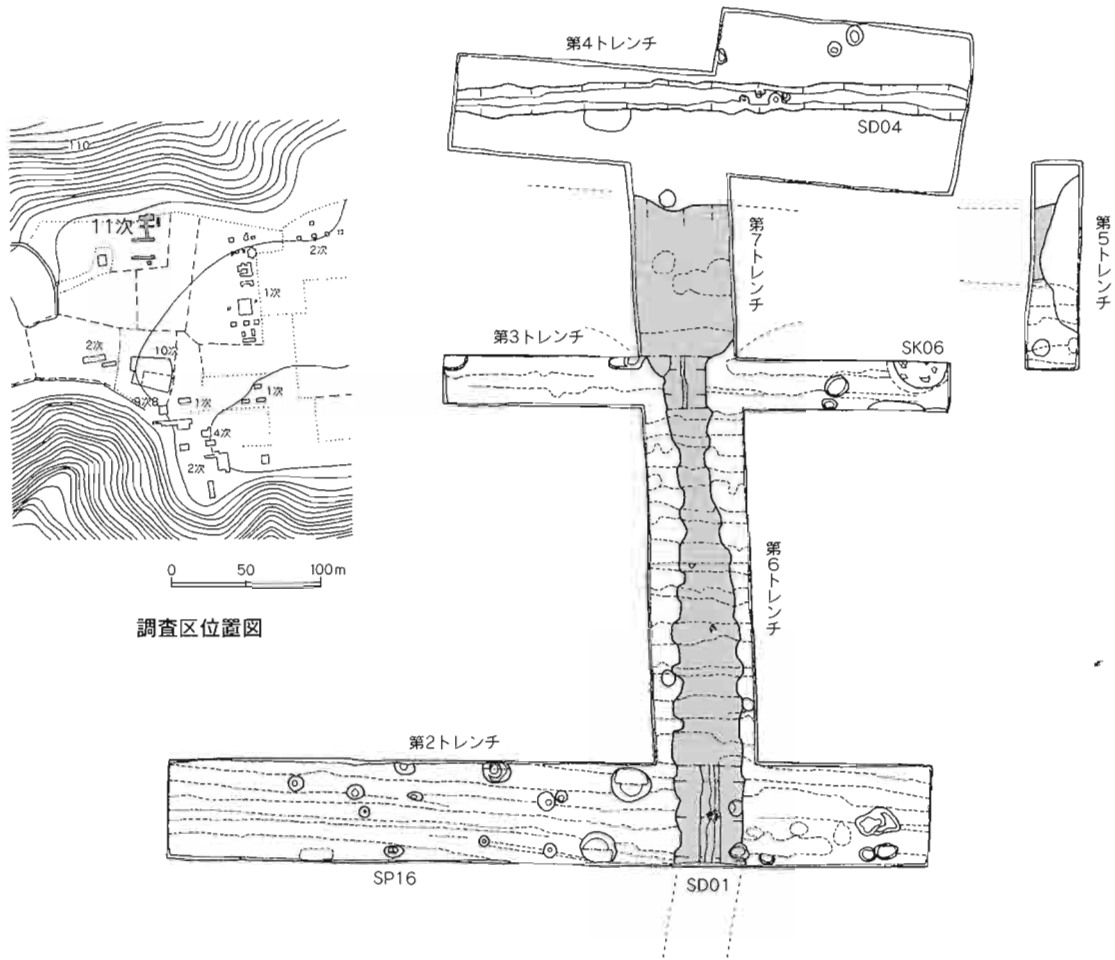
貯蔵穴は3基出土している。SK05は方形もしくは長方形とみられ、長さは1.85m、幅0.9m+ α 、深さ0.8mで、やや浮いた状態で中期初頭の壺の底部が出土している。SK06は第3トレンチ東端部で検出した袋状貯蔵穴である。上面径1.1m、最大径1.3mで、深さ0.7mまで掘り下げたが、以下は保存のため未掘となっている。弥生

前期末から中期初頭の甕や壺がまとまって出土している。SK07は小型の袋状貯蔵穴である。推定径0.55m、深さ0.15～0.18mである。時期の判る遺物は出土していない。

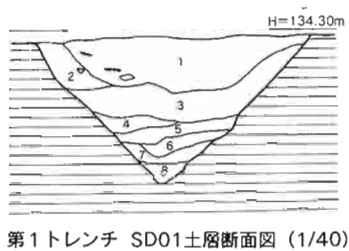
その他、小型の土坑とピット群がある。ピット群は調査区の関係で堀立柱建物としてまとめることはできなかったが、SP16からは中期初頭の壺が出土している。

次に出土遺物について少しみておきたい。遺物実測図1～3はSD01から出土した甕である。SD01は今回一部分しか掘り下げていないので時期を決定づける遺物がない。10次調査の遺物と比較するとこれらの遺物は時期的に古いものとみてよからう。1は中期末、2は底面に丸みを持っており後期後半、3は中期前半の甕である。4はSK05から出土した壺の底部である。外面には細かなハケ目の後へラミガキが加えられている。中期初頭のものであろう。5・6はSC02から出土した丹塗研磨の高坏と甕の底部である。高坏には坏部中央にM字状の突帯が巡る。中期前半代か。6は底部が肥厚しており中期初頭のものである。7はSP16から出土した壺の頸部から肩部にかけての破片である。肩部には三角突帯を巡らし刻目を入れる。内面には指頭圧痕が残る。中期初頭のものであろう。8～14はSK06から出土した甕と壺である。8～10の甕は口縁部を肥厚させ、外面はハケ目調整を施している。9・10には口縁下に一条の沈線を巡らす。11は壺の底部である。壺は胴部の破片などが他にも出土している。12～14は甕底部である。12は肥厚した底部を窪ませ、13は肥厚した平底の底部、14はやや肥厚した平底の底部になっている。これらの遺物はSK06の中位からやや上位にかけてまとまって出土している。弥生前期末から中期初頭に属するものである。

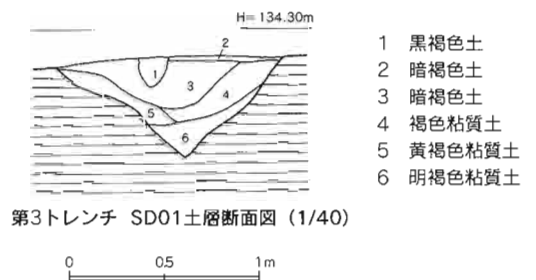
今回の調査では、10次調査で検出された断面「V」字状の大溝がどの様に延びて、どういう性格のものかを検討するため実施したが、その結果、台地上を100m以上に亘ってほぼ直線的に延びる条溝であることが判明した。しかも、台地北端部では台地縁辺部を取り囲む環濠と考えられる大溝に「T」字状に接合していることが新たに判明した。これまで、吹上遺跡は独立した台地上に立地しているため環濠を有しない遺跡と考えられていたが、台地縁辺部を環濠が巡り内部は条溝で区画されるという遺跡の構造が推測できるようになってきた。このことは11次調査の大きな成果である。また、東西に併行するSD04や第6トレンチでSD01が極端に幅が浅くなっていることなども検討が必要である。以前の第1・第2次調査で台地中央部や南端部で部分的ではあるが大溝が検出されており、これらがどの様に関連するのか今後の課題である。その他、11次調査では



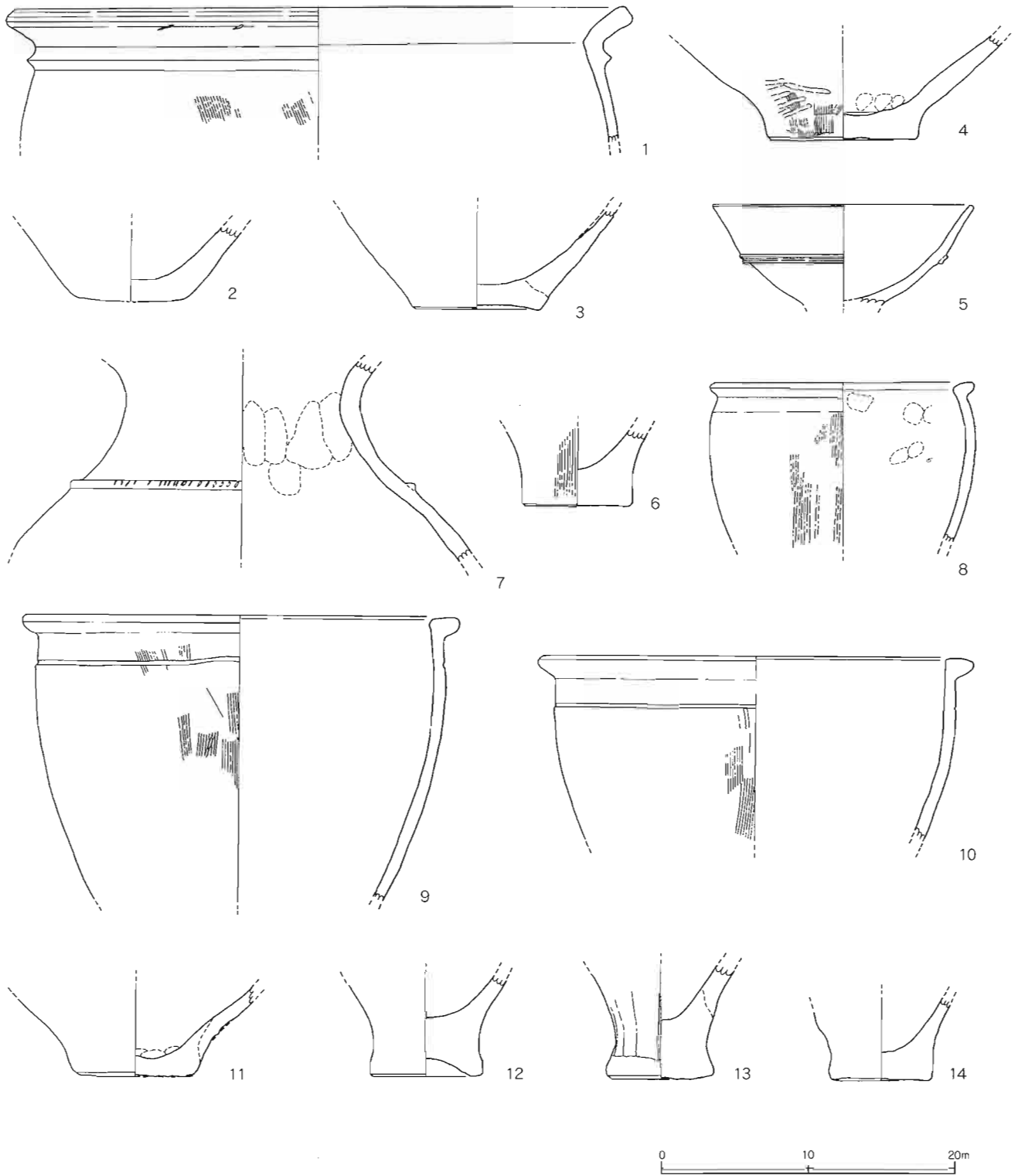
第11次調査区全体図 (1/150)



- 1 黒褐色土
- 2 黒色粘質土
- 3 茶褐色粘質土
- 4 暗茶褐色土
- 5 暗褐色粘質土
- 6 暗灰褐色粘質土
- 7 暗茶褐色粘質土
- 8 黄褐色粘質土



- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 褐色粘質土
- 5 黄褐色粘質土
- 6 明褐色粘質土



吹上遺跡第11次調査出土遺物実測図 (1/4)

弥生中期初頭の生活遺構の広がりが確認できたことも成果のひとつであろう。

平成7年の特定集団墓（6次）の発見以後、5ヶ年計画で保存を目的とした範囲確認調査を進めてきたが一般成員の墓地、生活遺構、環濠や条溝など各時期に亘って複雑な構造が明らかになりつつある。今後さらに遺跡の全体構造が判明するような確認調査が必要であろう。（下村）

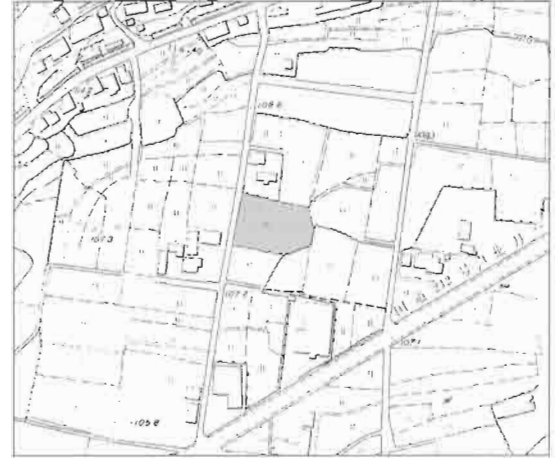
7. 三和教田遺跡H地点 —地盤整地に伴う発掘調査—

所在地 大字三和字大塚2479-1ほか
 担当者 若杉竜太

調査面積 1,050㎡
 調査期間 120828~120912

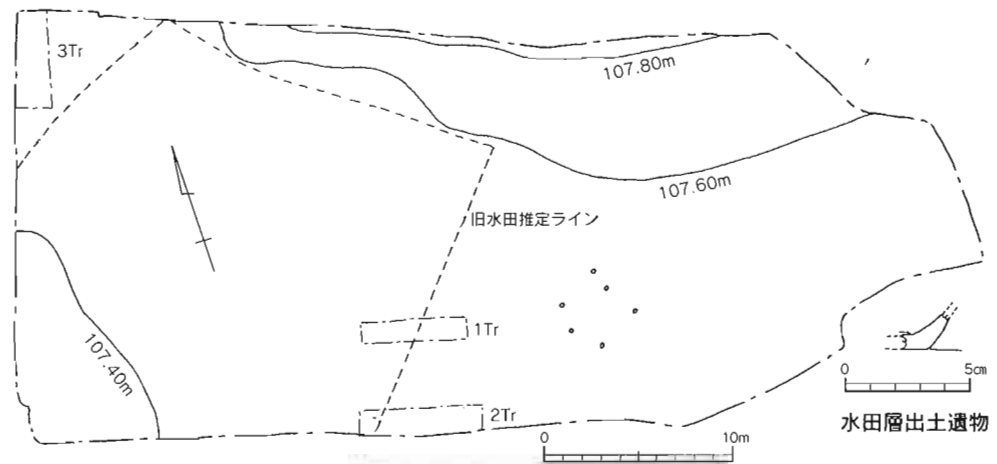
遺跡の概要

遺跡は花月川右岸の沖積地上に位置する。遺跡の周辺は過去に数回調査が行われている。調査区の北東側に位置するA地点では縄文時代晩期の土器や弥生時代後期後半から終末を中心として、弥生時代中期初めや12世紀代の土坑群が見つかった。また、調査区西側の丘陵上に位置する三和教田遺跡B地点では後期後半から終末にかけての環濠や中世期の掘立柱建物が調査されている。さらに調査区東側のG地点では、杭列を伴った弥生時代後期終末頃の溝やこの溝に切られた流路跡が検出されている。この流路跡については、調査区の南西側のC地点、E地点で検出された縄文時代後期の流路跡に繋がる可能性も考えられている。



遺跡位置図 (1/5,000)

調査では、G地点及びC・E地点で検出された流路がH地点につながることを想定して行ったが、流路跡はみられなかった。調査区からは、現在の水田下層で、糸切り底の土師質小皿片が出土し、また、中世期と思われる水田区画が検出された。調査区東側では、掘立柱建物との確認はできなかったものの、柱穴が検出されたことから、近辺に集落が存在した可能性も考えられ、当時の集落と水田のあり方を考える上での資料となりうる。



遺構配置図 (1/400)



遺跡全景



土層

8. 大行事遺跡 (DGJ) —広域農道建設に伴う発掘調査—

所在地 西有田字平等寺1193-4ほか
担当者 渡邊隆行

調査面積 450㎡
調査期間 120829~121120

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地西部の葛原台地南端の入り組んだ狭い谷地の標高105m~110mの斜面に位置し、南側には有田川の支流石松川が西流し、沖積地が広がっている。周辺には、北に葛原遺跡、西有田赤ハゲ遺跡があり、東には有田古墳、西には日田条里跡、南には夕田遺跡、夕田横穴墓群、佐寺原遺跡や広域農道に伴って調査した内ノ下遺跡、川原田遺跡などが所在する。

遺跡は広域農道建設に伴う発掘調査である。調査区からは住居跡12軒、掘立柱建物5棟、ピット多数が検出された。住居跡、掘立柱建物は古墳時代後期~古代に属し、ピットからは縄文時代の遺物も出土した。

発見された遺構・遺物から、遺跡は主に古墳時代から古代の集落遺跡であることが分かった。出土遺物から、古墳時代の住居跡は6軒、古代の住居跡は5軒、不明なもの1軒であると考えられ、掘立柱建物は古代に属するものと考えられる。住居と建物群は調査区南北両方向に展開してゆくものと考えられ、狭い谷地全体に集落が展開していたものと思われる。また、調査区の直上にある南側の丘陵上には横穴墓群が展開していたことが確認された。既に開口しているものが殆どで、未調査のため詳細は不明であるが、古墳時代後期の集落の時期に対応すると考えられる。調査区に隣接する栗畑の開墾の際には5世紀の後半と考えられる須恵器高杯が採集されており、横穴墓の継続時期については今後の調査課題である。

今回の調査から、集落は沖積地に沿って展開するのではなく、狭い谷地に展開し、その墓域が集落の付近に所在する一つのパターンが明らかになった。しかし、沖積地に位置する川原田遺跡から古代の遺物が見られるようであり、集落の展開と沖積地の利用のあり方も今後の検討課題といえよう。なお、縄文時代については遺構が検出されなかったことから、実態を把握することが出来なかった。



遺跡位置図 (1/5,000)



遺跡全景



1号住居

9. 天満古墳群4次 (TMN-4) —遺跡の範囲確認調査—

所在地 大字小迫字天神山1854ほか
担当者 行時志郎・下村 智 (別府大学)

調査面積 40㎡
調査期間 120919~120929

遺跡の概要

遺跡は日田盆地北部、標高120mの通称宮原台地上の南端部に位置する。

天満古墳群は1～3次の調査で、1号墳の墳丘規模(復元墳長33m)・前方部での第2主体部の確認、2号墳での須恵器特殊壺の出土・多角形にめぐる2重周溝の確認などの成果があった。

今回の調査では前年度の3次調査にひきつづき1号墳の範囲・規模・構造等の確認のために墳丘周囲に4本のトレンチ(第5～8トレンチ)を設定し、発掘調査をおこなった。

第5トレンチは、天満社殿東側に設定した。トレンチ中央よりやや北側で古墳に先行する時期の溝を確認した。中央部より弥生後期の土器が、南側より中世の土師器坏が大量に出土した。第6トレンチは、後円部東端部付近に設定した。トレンチ東端部で段落ちを、また中央部よりやや西側で墳丘のたちあがりを確認した。墳丘盛土中より弥生中期を中心とした時期の土器、後世の攪乱土中より須恵器特殊壺片、中世土師器、青磁等が出土した。第7トレンチは、天満社西側の括れ部に設定した。トレンチ北側では墳丘盛土、および墳丘盛土下より古墳にともなう掘込みが確認され、須恵器(高坏片)が出土している。また中央部からやや南側寄りに古式土師器片を含む東西にはしる溝が確認された。そのほか中世土師器が大量に出土した。第8トレンチは、7トレンチ西側に設定した。トレンチ北側(前方部側)で掘込み、および南端部で段落ちを確認した。前者は7トレンチ同様この掘込みから墳丘が築造されており、墳丘裾部から須恵器蓋坏類がまとまって出土した。ほか中世土師器、白磁片、陶器等が出土した。

次に主な出土遺物をもておきたい。1は坏蓋で、口縁端部に段を有し、天井部と口縁部との境に明瞭な沈線を1条、さらにこの沈線下に全周しない沈線を施す。天井部外面に回転ヘラ削りがみられる。2～4は坏身で、たちあがりの角度が強く長い。ただし2は口縁端部に段を有さないが、3・4は不明瞭ながら段を有す。また2が、3・4に比べたちあがりやや長いなどの相違点がみられる為、型式差がある可能性もある。下部外面には回転ヘラ削りがみられる。また4には底部外面にヘラ記号の一部が残る。1～4はともに8トレンチ北側



遺跡位置図 (1/5,000)



第7トレンチ全景 (南から)



第8トレンチ北側墳丘裾部須恵器出土状況 (西から)

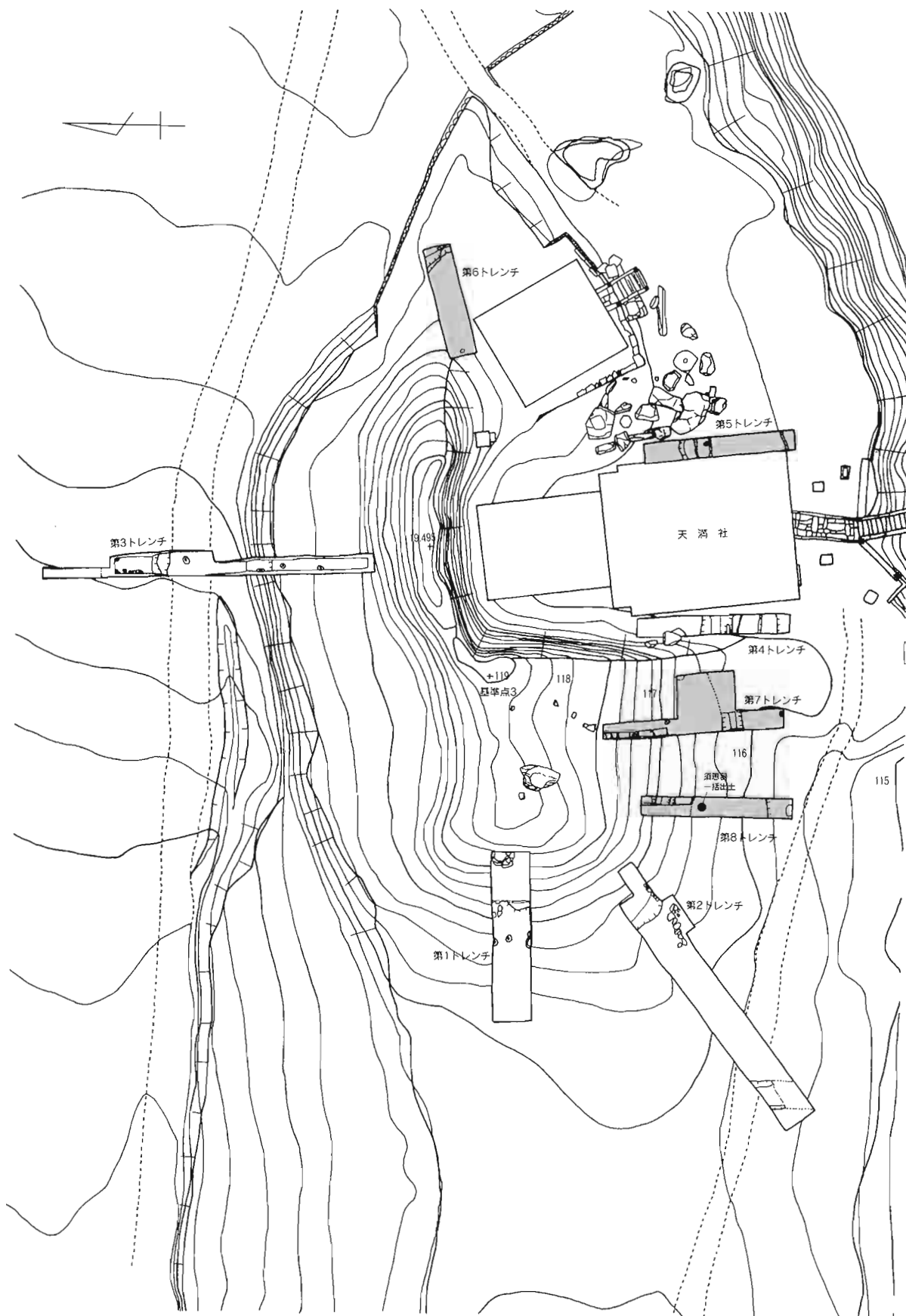
の墳丘裾部より集中して出土。5は甕の胴部片で、7トレンチ南側の溝の検出面より出土。全体の器形は胴部が小ぶりで、頸部がしまるので、8トレンチの蓋坏群よりも時期が新しい可能性がある。6は高坏の脚部片で、7トレンチ北側墳丘盛下掘込みより出土。脚部裾は段を有し、端部は丸くおさまる。脚部外面には波状文が施されている。スカシは残存状況から3ヶ所と考えられる。7～9は特殊壺で、すべて6トレンチより出土。7は頸部付近で、口縁部を欠くが、肩が張るタイプである。外面には頸部が横位カキ目ののちに波状文、および沈線を施す。胴部は縦位平行タタキである。内面は胴部に同心円のタタキ、また頸部下位には横位ヘラナデがみられる。8は肩部片で、外面は縦位平行タタキで、内面は同心円タタキののちナデているようである。9は底部で、胴部外面側に斜位平行タタキののち、最下部にヘラ削りを施す。また底部外面には地元産の可能性のある軽石を含む粘土が溶着しており、粘土には何箇所かの人為的な剥離痕がある。このほか10～12は、中世の土師器坏であるが、調整は内外面が横ナデ、底部が糸切りである。10には底部内面に調整痕がみられる。土師器は大量に出土しており、15～16世紀のものであろう。

今回の調査では以下の成果があった。第1に、6トレンチで墳丘のたちあがり確認でき、前年度の1トレンチ(前方部)の成果を加味し、墳長が33mと判明した点である。第2に、7・8トレンチで墳丘盛上下より掘込みが確認されたことである。これらは昨年調査で古墳の周溝と判断したもの(2トレンチ)と対応すると思われる、現時点では、前方部石室構築に伴うものか、もしくは墳丘築造時の割付線・設計線の性格の可能性を指摘しておきたい。後者は、千葉県人形塚古墳(笹生1987)・静岡県長塚古墳(後藤・梅澤1957)等で確認されている。ただし、後円部側では確認されていないことから、あった場合でも一部のみであろう。なお、最近の調査により長塚古墳例の一部は後世の攪乱の可能性も指摘されている(鈴木・山本ほか1999)。そのほか、前回の4トレンチの溝は古墳の周溝と考えられたが、今回の5・7トレンチの溝と連続すると思われる古墳に先行する遺構であることが判り、古墳には周溝が巡らないことが判明した。また古墳にともなうかどうか不明であるが、前回3トレンチで検出された中央部やや南寄りのテラス状の段落ちと対応する可能性のあるものが、6トレンチ東端部・8トレンチ南端部で確認されている。古墳の周囲に関しては今後の調査によって解明されるであろう。第3に、前方部より須恵器がある程度まとまって出土し、当古墳群の時期を探る手がかりを得られたことである。2号墳では、外溝よりTK10併行と思われる須恵器坏蓋が出土している。今回の1号墳前方部出土のものは概ね、TK10～TK43が主体であり、前方部石室関連の遺物の可能性もある。とするならば後円部石室の時期は、前方部石室と併行～先行する時期と考えるのが当然で、両古墳の前後関係は6世紀中～後半の範疇で今後検討を要する結果となった。また6トレンチで後世の攪乱ながら須恵器特殊壺が出土したことも重要である。2号墳からの持込み・混入の可能性もあるが、2号墳と当古墳のものとを比較検討すると、後者にみられる頸部内面の横位ヘラナデ調整は現時点では前者ではみられない調整であるし、同心円のタタキが2号墳の方が不明瞭であるという相違点をとりあえず指摘できる。また、この特殊壺自体の系譜の問題もあり、埼玉県中の山古墳等の国内および韓半島の類例の検討、器高が当該遺物よりも低いが「徳利形」の百濟系壺も検討の対象となろう。以上、今後の調査・検討に努めたい。(吉田 和彦・下村)

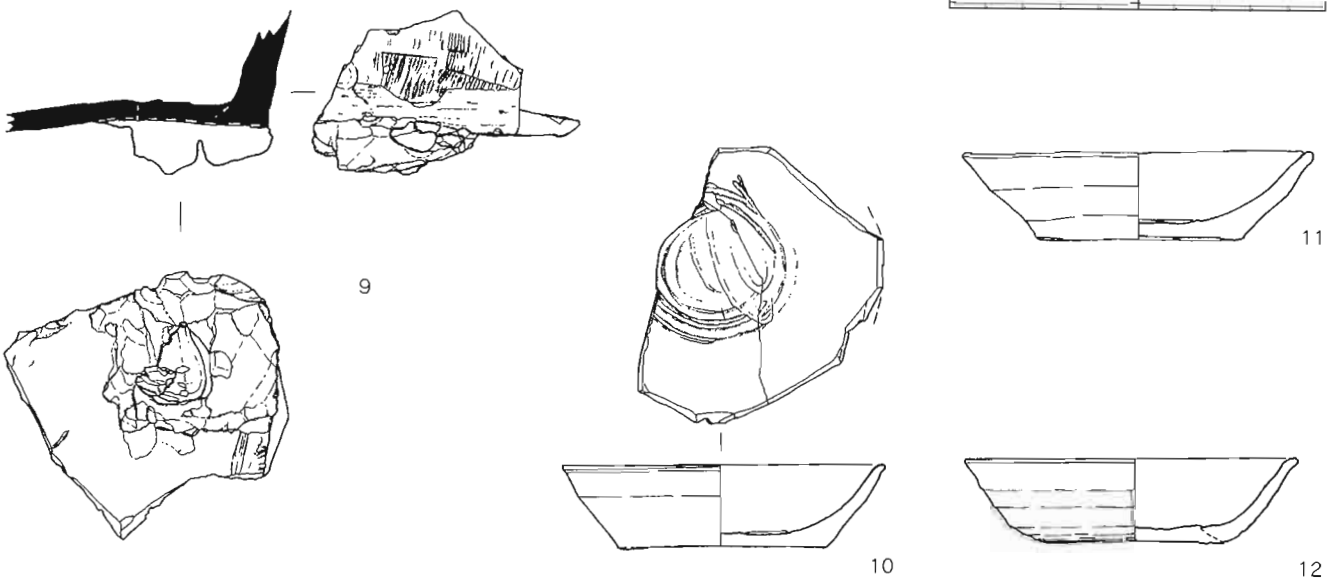
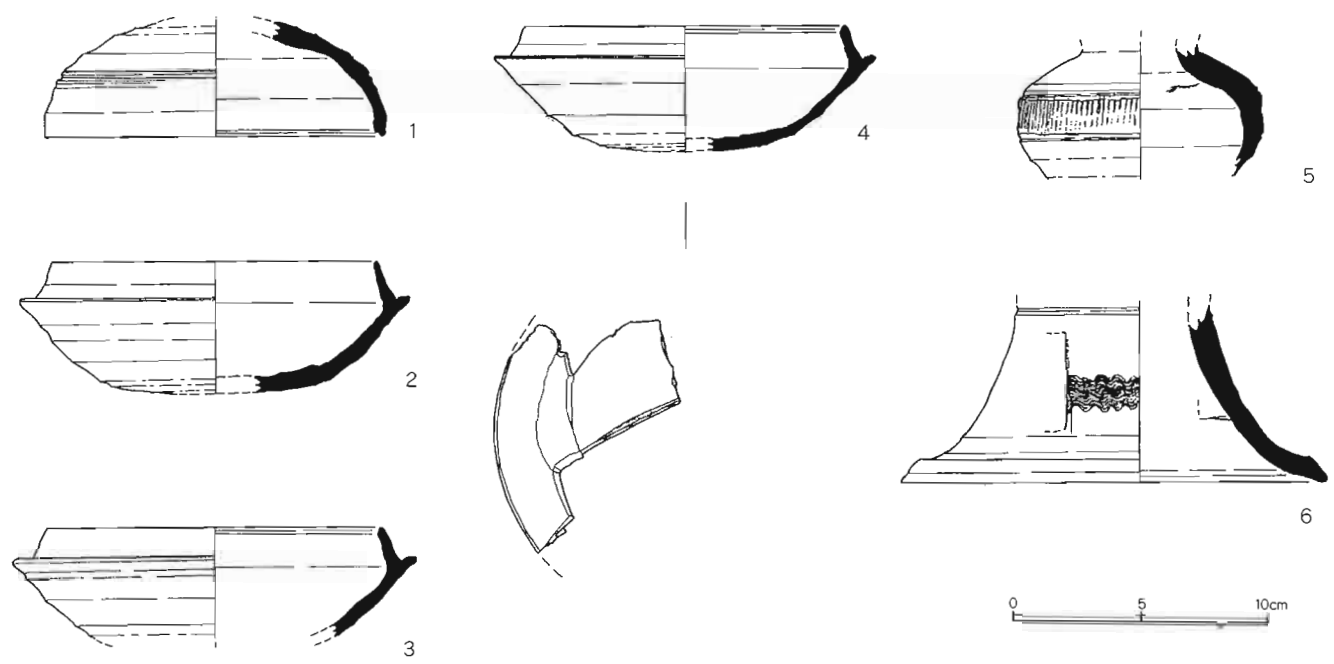
後藤守一・梅澤重昭 1957『沼津長塚古墳』沼津市教育委員会

鈴木裕篤・山本恵一・雨宮寛明・山田康雄 1999『長塚古墳・清水遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会

笹生 衛 1987「椎名崎古墳群・人形塚古墳発掘調査概要―人形塚古墳旧地表面上の地割線について―」『研究連絡誌』第19号、財団法人 千葉県文化財センター



天満1号墳調査区配置図 (1/300)



天潢 1 号填出土遗物实测图 (1/3、1/4)

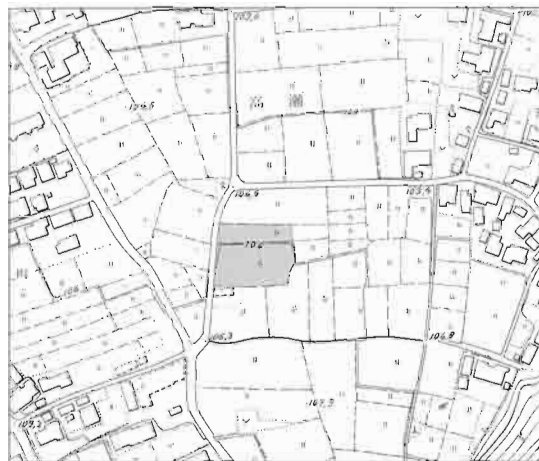
10. 高瀬条里永平寺地区 (TJ-IH) 一分譲住宅工事に伴う発掘調査

所在地 高瀬字火ノ口663-1
 担当者 行時志郎

調査面積 700㎡
 調査期間 121002～121115

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地南部、三隈川南岸の河岸段丘上に開けた沖積地の微高地上に位置する。遺跡東部には高瀬川が北走しており、その東側には、弥生時代の溝跡や古代の竪穴住居跡が発見されている惣田遺跡があり、横穴式石室を主体部とする惣田塚古墳も隣接して存在する。また、遺跡の存在する沖積地の北端に近い位置には、5世紀代の竪穴式石室を主体部とする姫塚古墳が存在する。さらに、この遺跡周辺には、中世の郡司職であった大蔵永平の霊を祀るために建てられたとされる永平寺跡があったと伝えられ、遺跡の西側に隣接する位置には、その周辺部から出土した板碑や五輪塔などの石造物がまとめて置かれている。



遺跡位置図 (1/5,000)

調査では、遺物として弥生時代、古墳時代、中世、近世のものが出土したが、遺構として確認できたのは、中世から近世の時期にかけてのものである。遺構としては、中世の掘立柱建物跡9棟、土坑2基などのほか、近世の土坑6基が検出された。

今回の調査で、建物や土坑などの遺構から出土した遺物は、青磁碗や土師質土器などの年代から、主として13世紀から16世紀までのものを中心としており、永平寺跡創建時から高瀬氏が滅亡する16世紀中頃までの年代と合致し、中世期に存在したと伝えられる永平寺が実在していた可能性を高める貴重な手掛かりとなった。この永平寺跡の存在したと考えられる寺域は、現在の高瀬天満宮に通じる道路に隣接する水田の中に、今でも建物基礎石がそのまゝの状態に残されており、今回調査した位置を含めたそれより南側の広い範囲にわたることが推定される。



遺跡全景



遺構配置図 (1/250)

11. 尾部田遺跡 (OBT) 一分譲住宅に伴う発掘調査一

所在地 小迫字尾部田
担当者 行時志郎・渡邊隆行

調査面積 700㎡
調査期間 121205～121225

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地北部の沖積微高地上に立地する。遺跡のすぐ南側の斜面や丘陵上には、5世紀前半代の円墳や6世紀後半から7世紀代にかけての横穴墓群が多数築かれた小迫墳墓群があり、また遺跡を見下ろす北側の通称宮ノ原台地上には、弥生時代の多数の竪穴住居跡や中世の木棺墓などが多数発見された朝日宮ノ原遺跡や古墳時代後期の2基の前方後円墳が並ぶ天満古墳群が存在する。さらに、東側の通称辻原台地上には、古墳時代前期の環溝居館などが発見された小迫辻原遺跡が存在している。

調査区からは、縄文時代後期の竪穴住居跡1軒のほか、弥生時代後期終末から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡7軒、古墳時代から古代の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物2棟などが確認された。

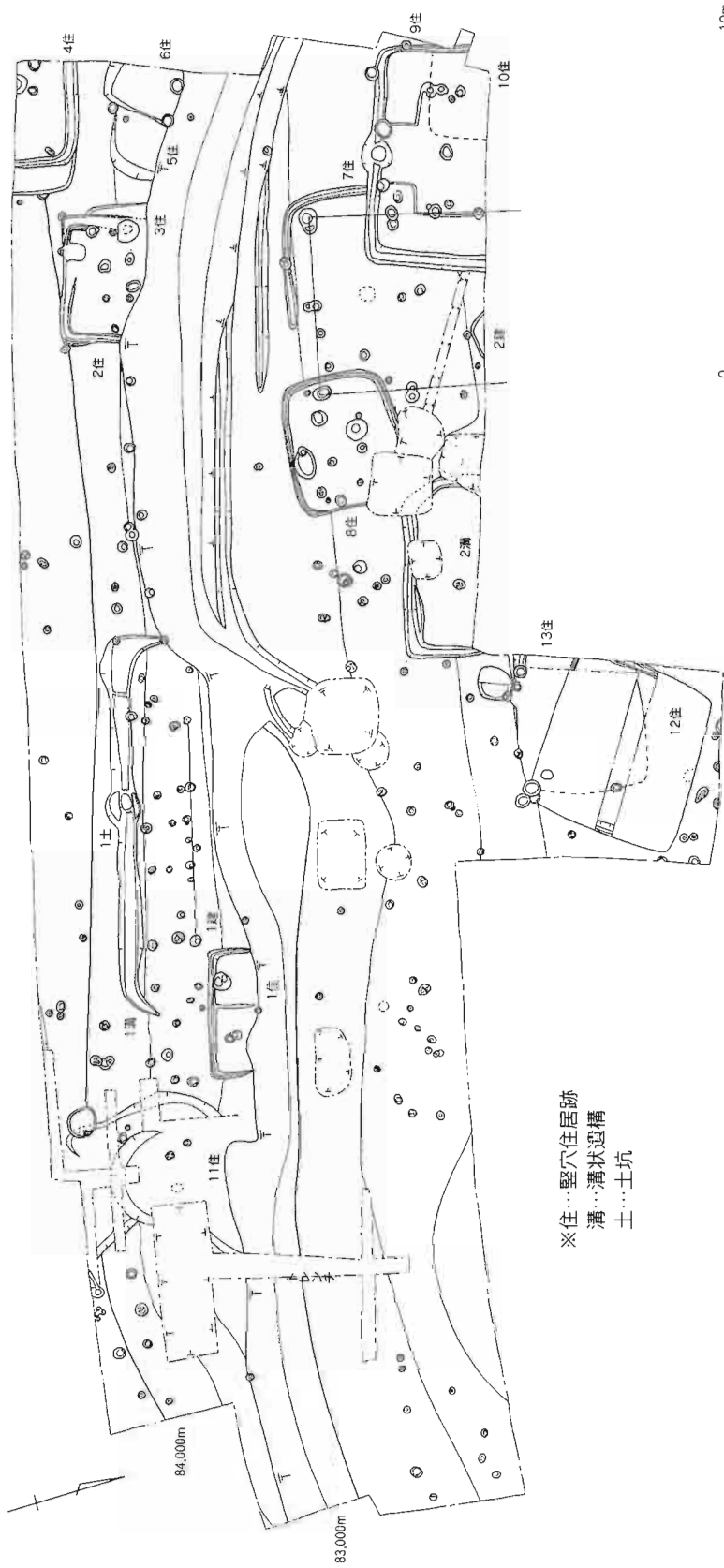
調査の成果として、弥生時代終末から古墳時代前期の遺構は、小迫辻原遺跡と同時期と見なすことができ、台地を囲む沖積地上においても、この時期と重なる集落の存在が明らかとなった。今後、この地域での開発が進むことにより調査も増えることが予想され、その結果として、沖積地における集落の展開の様相などが明らかになってくることがうかがえる。このことにより、小迫辻原遺跡で確認されている環濠集落や環溝居館と沖積地における集落とがどのような関係にあったのかなどの問題点も解明されることが期待される。また、縄文時代の住居跡は、手崎遺跡、葛原遺跡に次ぐ市内3例目となり、縄文時代の集落立地などを考える上での貴重な例となった。また、古墳から古代の遺構は、斜面に築かれた横穴墓群の時期と重複するものであり、墓地と集落立地の関係が注目される。(行時)



遺跡位置図 (1/5,000)



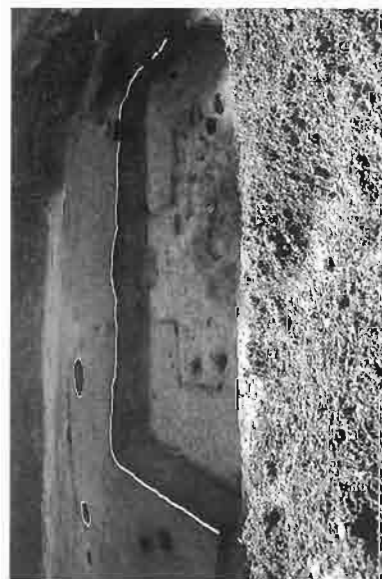
遺跡全景



遺構配置図 (1/200)



11号住居跡遺物出土状況



9号住居跡

12. 大肥条里下河内地区 (OJ-SK) —ほ場整備事業に伴う発掘調査—

所在地 鶴河内字下河内
担当者 行時志郎・吉田博嗣

調査面積 12890m²
調査期間 121204～130228

遺跡の概要

遺跡は、日田市西部大肥川の支流鶴河内川左岸に形成された河岸段丘上に立地する。遺跡より鶴河内川を南西へ約500m程下った地点で大肥川と合流するが、その西部には、古墳時代から古代にかけての多数の竪穴住居跡が発掘された大肥条里吉竹地区が、その南部には弥生時代の甕棺墓や石棺墓などの集団墓地や古墳時代から中近世にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物群が多数発掘された大肥条里中村地区が存在する。

調査は、試掘調査で明らかとなった遺跡の範囲の内、切土となる地点が大きく2カ所に分かれたため、上流の調査区北側をA区、南側をB区として行った。

A区では、主として中世後期にあたる時期と考えられる柱穴群とその遺構検出面より下から縄文時代前期から後期にかけての遺物包含層が確認された。B区では、古墳時代以降の柱穴などが検出され、またA区と同様にその遺構検出面より下からは縄文時代の包含層が確認された。包含層にトレンチを設定し、掘り下げた所、遺構検出面より包含層を挟んでその下から縄文時代の遺構が確認されたため、地点を定めて掘り下げ遺構検出を行った。その結果、縄文時代前期から後期にかけてと考えられる集石遺構3基、竪穴遺構2基、溝1条、土坑12基が検出された。

調査の成果として、縄文時代前期の遺構は、集石や竪穴等も伴っていることから、ある一定の時期に集落を構えていたことが想像される。市内ではこれまでこの時期の遺構がまとまって検出されたことはなく、当該期の集落立地や構造、土器の系譜を考える上で参考となり、またこれまで確認されている市内での後続する時期の集落遺構との違いや変化を検討するための貴重な資料となった。(行時)



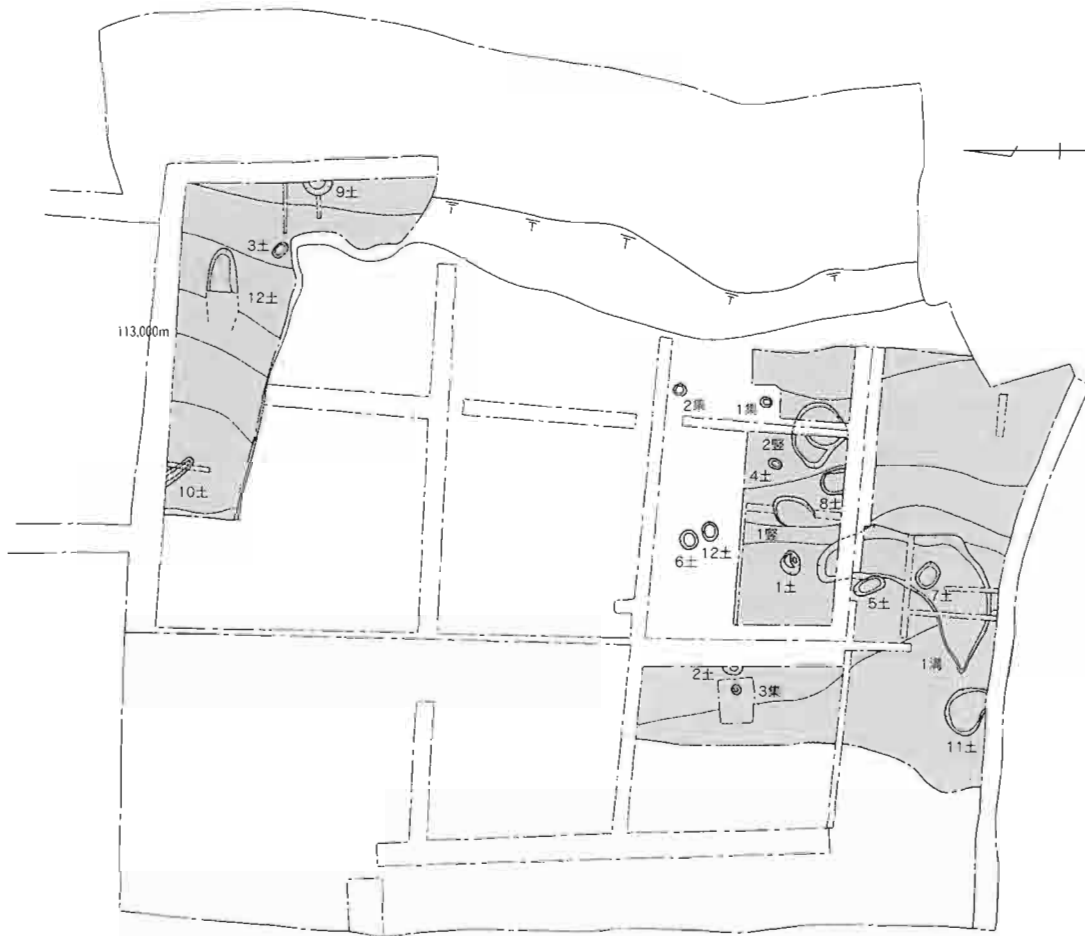
遺跡位置図 (1/5,000)



A区全景



B区全景



※トーン部分は下層面を掘り下げた範囲
 堅…堅穴遺構
 土…土坑
 溝…溝状遺構
 集…集石

B区下層遺構配置図 (1/400)



B区下層全景



B区3号集石遺構

13. 会所山遺跡 (YSY) -重要遺跡確認調査-

所在地 日高字会所山53-1
 担当者 行時志郎

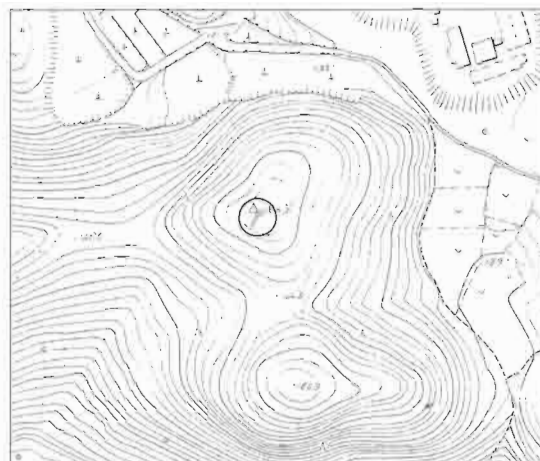
調査面積 10㎡
 調査期間 121212~121218

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地東部の通称会所山丘陵最高所に位置する。この遺跡からは、これまでに弥生時代後期の土器片が採取されているとともに、伝承のある土地として知られ、古代に書かれた「豊後国風土記」に登場する久津媛を祀っている。

調査のきっかけとなったのは、地元の考古学愛好家などが主体となって構成している「古代日田を語る会」の会員の方々が、この丘陵の最も高い位置にあたる通称「コレラ山」に地下の電気探査を行ったところ、約7m方形の石室の存在する可能性をレーダーが示したため、地元より確認調査の依頼が市教育委員会に提出され、石室の存在の有無の確認のみを行う目的で、調査を行うことになった。

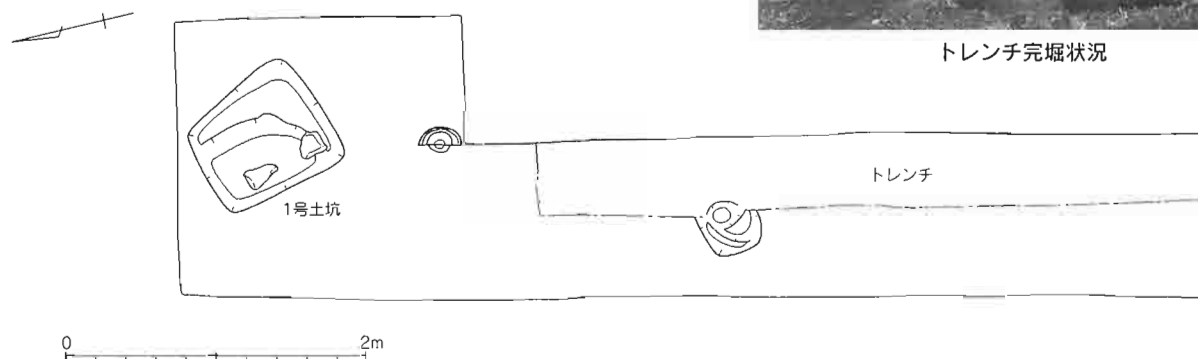
調査では、地元の方に来ていただき、レーダーに表された石室の範囲を示していただいた後、その中心にかかる位置で、その外側に50cm程かかるように1m×8mのトレンチを設定し、掘り下げ作業を開始した。約50cm掘り下げた所で、地山と考えられる黄褐色のローム層が検出されたため、一端その層まで止めて遺構検出を行い、土坑が1基検出された。しかし、石室の存在は、さらに50cm下層にあるとするため、トレンチを半分にしてレーダーに現れた石室に見えた遺構確認を行うことにした。結果としては、約1.2mまで掘り下げたもののレーダーに反応した石の存在すらも確認されなかった。土層を見る限りで、自然堆積層の境にカーボン状の粒子が多数見られ一つの層を形成しており、これによりレーダーがその密なところと粗密なところで反応し、まるで石室があるかのような図が出来上がってしまったためと考えられる。



遺跡位置図 (1/5,000)

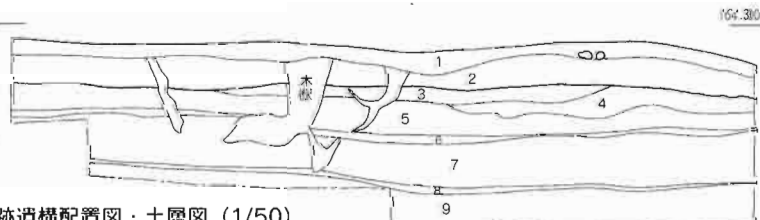


トレンチ完掘状況



1. 黒褐色土 (表土)
2. 暗褐色土 (バサバサしてやわらか)
3. 暗茶褐色土 (ややしまった土)
4. 淡茶褐色土 (")
5. 淡黄褐色土 (")
6. 茶褐色土 (黒褐色カーボン粒子多量に含む)
7. 5層と同じ
8. 6層と同じ
9. 淡黄灰色土

地山との境



会所山遺跡遺構配置図・土層図 (1/50)

14. 後迫遺跡 (USZ) - 山田原地区県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査 -

所在地 大字三和 (里道)
担当者 若杉竜太

調査面積 380㎡
調査期間 130110~130323

遺跡の概要

後迫遺跡は盆地北部の標高約120m前後の通称山田原台地の南端に位置する。調査は前年度に引き続いて調査区の南側の調査を行った。まず、3区の前年度に調査を行った部分より南側を調査し、その終了後、4区の前年度調査の継続部分の調査を行った。3区からは竪穴住居跡4軒、土坑11基、竪穴遺構3基が検出された。時期は弥生時代中期から後期にかけてのものである。4区では耕作や配水管埋設により削平を大きく受けており、遺構の残存状態はよくなかったが、竪穴住居跡1軒、土坑2基を確認することができた。3区の南端、4区の東端には、過去の地均しで削平されたと思われる落ち込みがみられた。落ち込み内からは、大量の土器片、石棺材が出土し、かなりの遺構が存在していたことが想定される。



遺跡位置図 (1/5,000)

後迫遺跡は大分自動車道建設に伴って平成3年度から5年度まで調査され、弥生時代中期から後期を中心とした竪穴住居跡95軒、掘立柱建物9棟など、多数の遺構が確認されている^(註)。今年度まで3か年にわたって調査した地点は大分自動車道の南側に当たるが、この地点においても削平の程度に軽重の差はあるものの、遺跡の広がりを確認することができた。道路部分の調査のため、調査区の幅が狭く、遺跡の全容をつかむまでには至らなかったが、集落が今回の調査区周辺に広がっていることは十分に想定することができる。

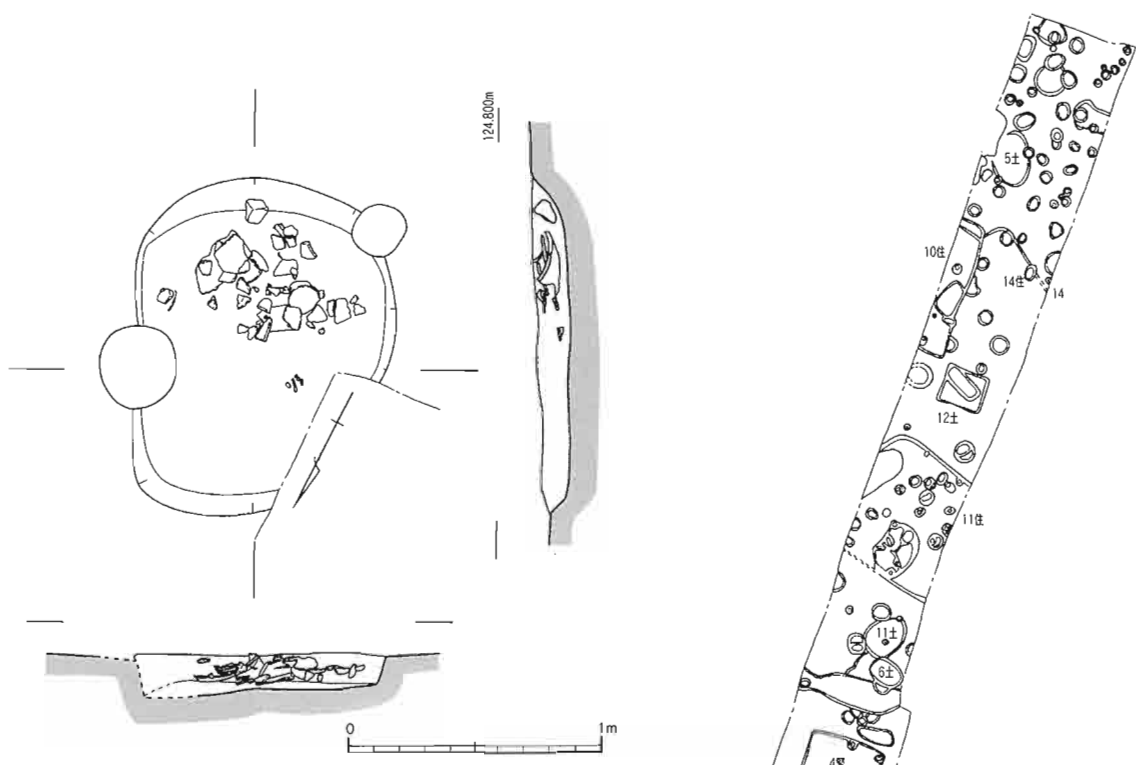
(註) 友岡信彦編『後迫遺跡』九州横断道関係埋蔵文化財調査報告書 (18) 大分県教育委員会 2001



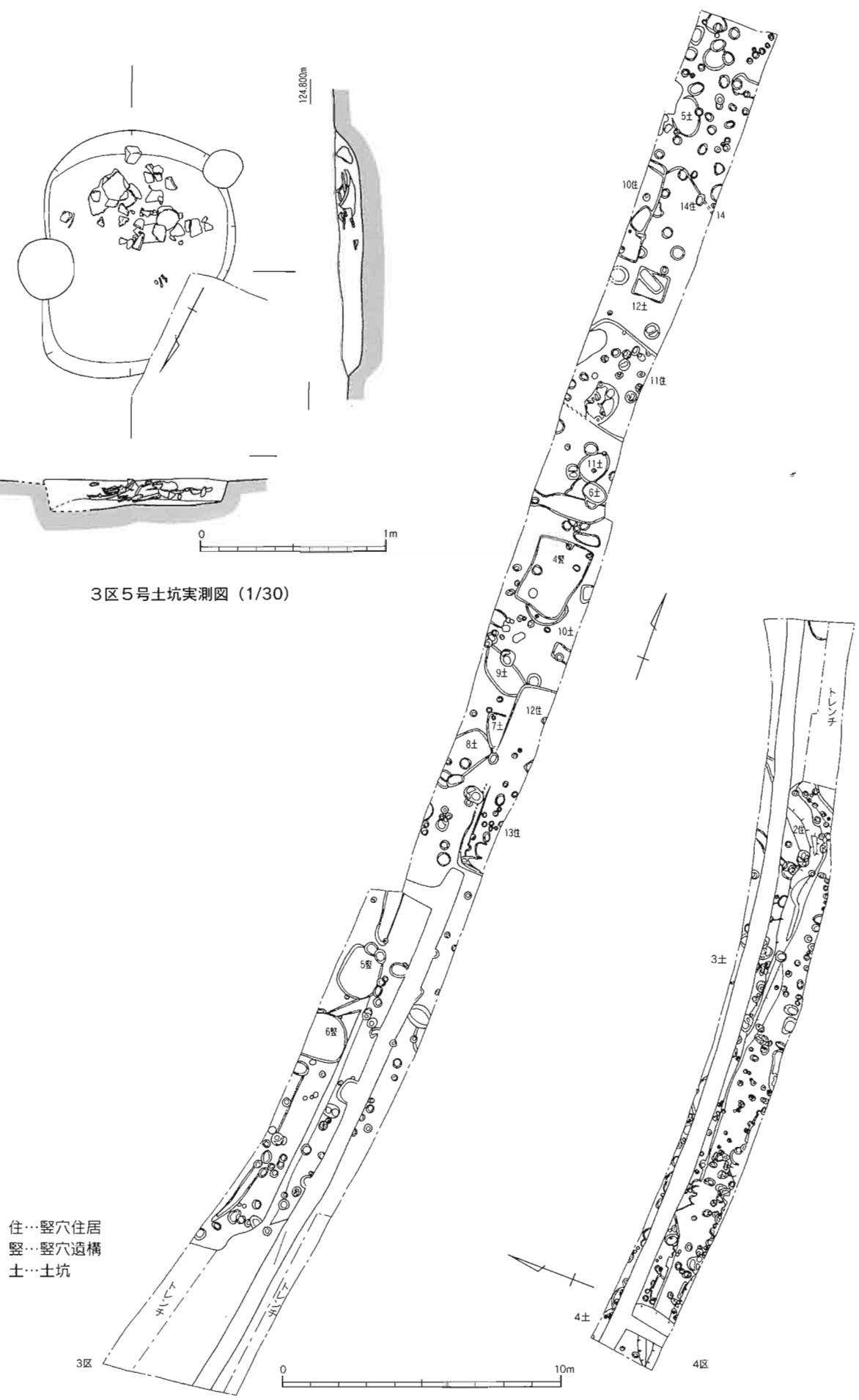
遺跡全景



3区10号土坑



3区5号土坑実測図 (1/30)



住…竪穴住居
 竪…竪穴遺構
 土…土坑

遺構配置図 (1/200)

15. 大肥条里吉竹地区 (OJ-YT) —県営圃場整備事業に伴う発掘調査—

所在地 大肥字榎町453-1ほか
担当者 渡邊隆行

調査面積 8270㎡
調査期間 130129～(次年度継続調査)

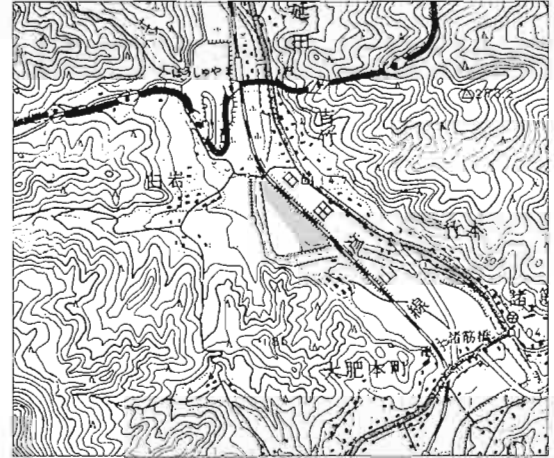
遺跡の概要

遺跡は大肥川が鶴河内川と合流する地点の手前に位置し、やや開けた標高111m前後の河岸段丘上に位置する。福岡県との県境にあたり、北にいくと宝珠山村を抜けて添田方面へ抜け、南には大肥川沿いに大肥条里中村地区、祝原地区、西には大肥条里下河内地区が所在する。

遺跡は圃場整備事業に伴う発掘調査で西側から調査を順次開始した。調査区からは、縄文時代の土坑1基、古墳時代の住居跡8基、古代の住居跡16基、時期の明確でない住居跡8基、掘立柱建物9基、竪穴状遺構6基、土坑約20基、溝4条、流路5条、ピット多数、包含層、中世水田層が検出された。調査区北側で

は、遺構は明黄褐色砂質土層を掘り込む形で検出され、この層自体も古墳期の遺物包含層であることから、大肥川の氾濫を繰り返して形成された層の上に集落が営まれていたことが分かる。このことから、古墳から古代にかけて集落が何度か流されたのではないかと考えられる。

縄文時代は後期の船元系土器が土坑から出土し、大肥条里祝原地区、下河内地区などと合わせて、大肥川一帯で縄文期の集落が展開していたことが予想される。古墳時代では排水等の施設と思われる溝が集落内を平行に走るように作られている。一過性の集落の造営ではなく、古代にかけて集落が長期間営まれていたものと思われる。このような古墳から古代の大規模な集落の発見例は大肥地区でははじめてであり、遺跡の立地が大肥一帯の端にあたり、福岡方面や飯塚方面とのアクセス路にあたることから考えても貴重な資料である。今後、大肥一帯との関係を踏まえての検討課題といえる。また、調査区内の現況は水田であったが、その下層から中世時期と考えられる水田の基盤層が検出されたことも、大肥一帯での水田開発の歴史を考える上で一つの資料を提供している。このような多くの貴重な資料を提供すると共に今後の調査を行っていく上での多くの課題を今回の調査では残したといえる。



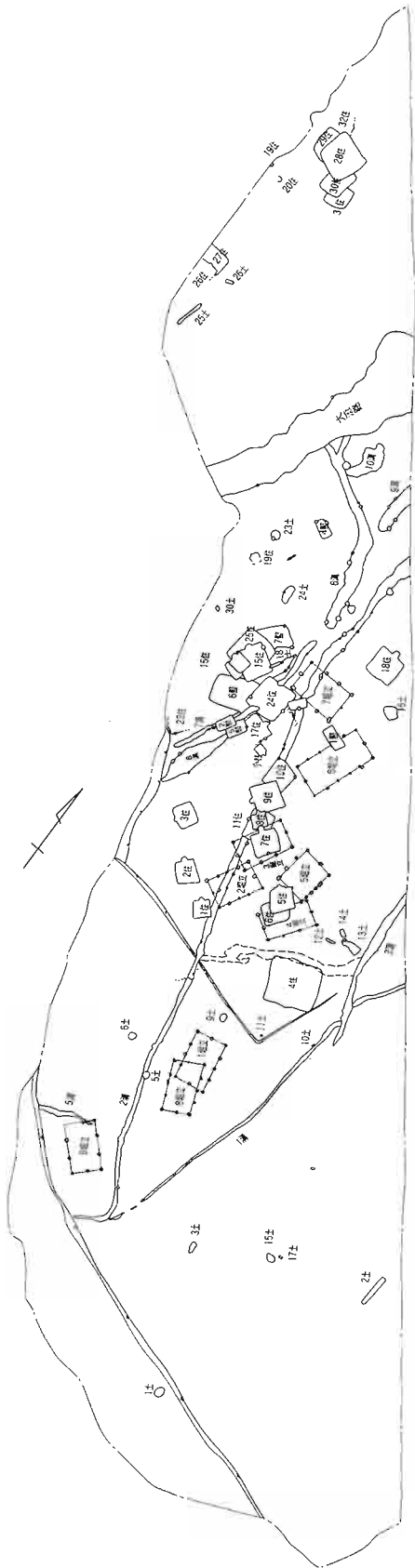
遺跡位置図 (1/5,000)



遺跡全景



住居跡群



※縄文…15土
 ※古墳…4、11、24、25～32住、1～3溝
 ※その他については古代と考えられるが今後整理予定

大肥桑里吉竹地区全体図 (1/800)



4号住居



6号住居

16. 本村遺跡3次 (HNM) —分譲住宅建設工事に伴う発掘調査—

所在地 渡里字本村936-1外
担当者 行時志郎・若杉竜太

調査面積 450㎡
調査期間 130213～(次年度継続調査)

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地北部の丘陵裾部にあたり、同遺跡2次調査区より東側約200mの地点に位置する。

本村遺跡の北西部にあたる辻原台地には、古墳時代初頭の環溝居館が発見された小迫辻原遺跡、南西部にあたる吹上台地には弥生時代中期の首長墓や後期の環濠集落が発見された吹上遺跡が、またやや北側の丘陵上には弥生時代後期から古墳時代前期の墓地が主体を占める草場第2遺跡が存在する。

調査の成果として、弥生時代の竪穴住居跡17軒、竪穴1基、古墳時代から古代の竪穴住居跡26軒、溝1条、掘立柱建物跡2棟などが検出された。

これらの遺構のうち、弥生時代の住居跡はいずれも「タタキ整形」を行った長胴甕などが主体で、2次調査区同様後期後半から終末にかけての時期の特徴を備えていた。この住居跡の中の1軒から国産?製鏡片が1点出土したが、調査区の北側丘陵上につくられた草場第2遺跡の墓地群の時期と一致し、また同遺跡からも表採資料として同様の鏡片が出土していることから、両者の集落と墓地の関係がそれらの出土遺物を通して明確となるのかどうか今後注目される。また、他の時期についても中世を除けば2次調査区で見られた時期と合うものであるが、これらの時期の集落が丘陵裾部一帯に広がっていたと仮定すれば、微高地はさらに3次調査区より東側へ向かうにしたがって序々に狭くなりながらも延びており、恐らくその一帯までがこの時期の集落としての展開をみせることが予想される。(行時)

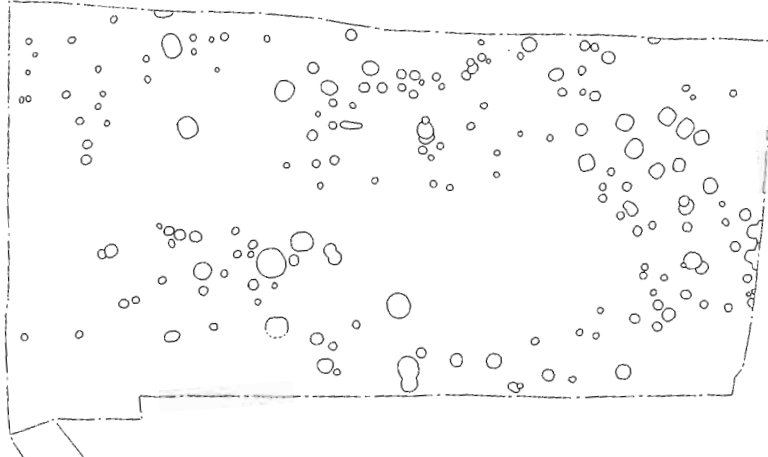


遺跡位置図 (1/5,000)

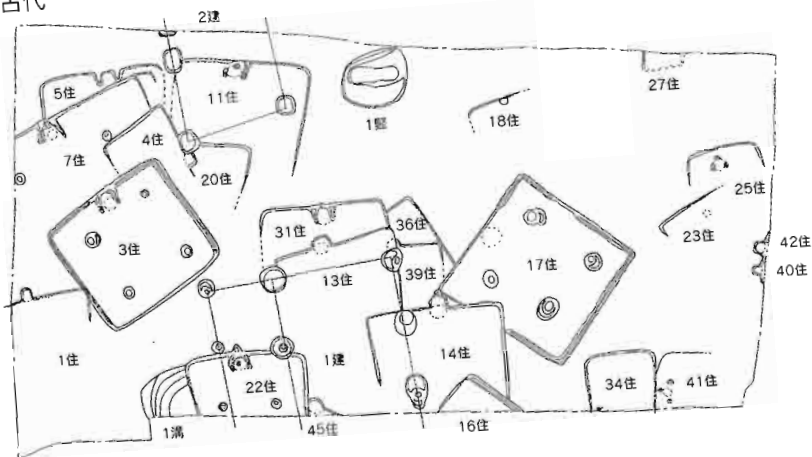


遺跡全景

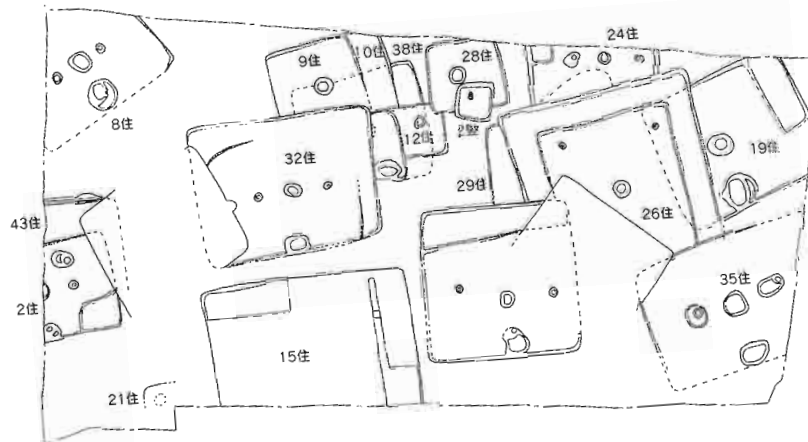
古代~中世



古墳時代~古代



弥生時代



遺構配置図 (1/300)

17. 元宮遺跡6次 (MTM-6) -土取工事に伴う発掘調査-

所在地 求来里字堂園604-1
 担当者 行時志郎

調査面積 30㎡
 調査期間 130306~130312

遺跡の概要

遺跡は、日田盆地東部の元宮原台地を見下ろす丘陵上に立地する。

これまでの1・2次調査では、弥生時代後期から古墳時代前期初頭頃の石棺墓、甕棺墓、木棺墓、土坑墓、溝が確認されている。また調査区の東側約200mの地点で行われた3次調査区からは、古墳時代の土坑墓5基、石棺墓1基が確認されている。

今年度は、残りの約30㎡の発掘調査を行い、石棺墓1基、石蓋土坑墓1基が発見された。石棺墓は、棺材はすでに抜き取られ、折れた石材がわずかに掘り込み部分に残っていた。また、土坑墓は、墓坑の中に安山岩を加工した扁平な蓋石がよろい重ねの状態で見出され、そのまま中に落下したものと推測される。

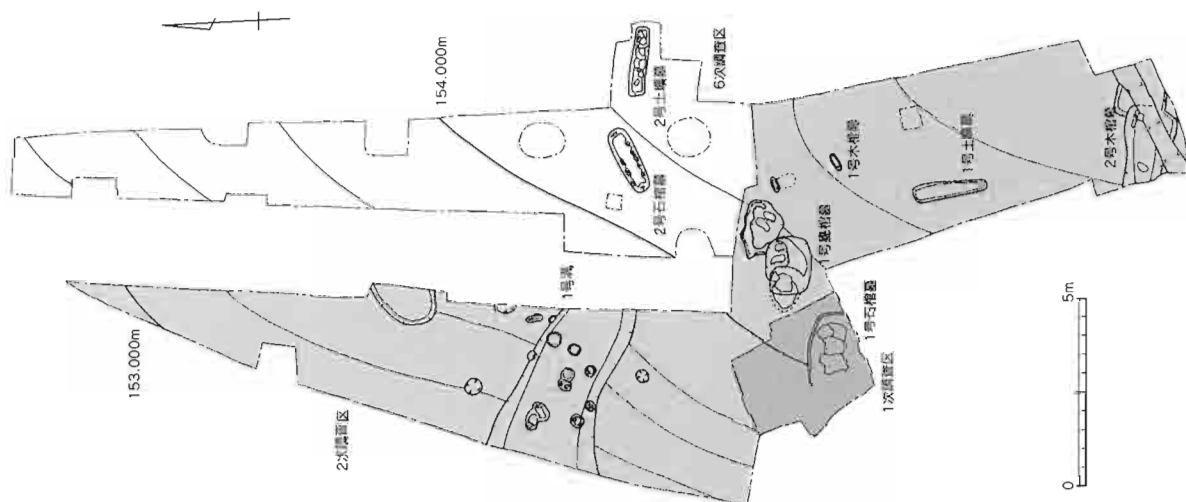
この3次にわたる調査により、石棺墓2基、甕棺墓1基、木棺墓2基、土坑墓2基が工事予定地内に存在していたことが明らかとなった。墓域は、3次調査区で同様の土坑墓や石棺墓が発見されていることや、また調査区の東側に隣接する私道を建設する際にも石棺墓が発見されていることから、墓域は3次調査区までの丘陵全域に広がっていたと考えられる。また、3次調査区で確認された墓は5世紀から6世紀にかけての土坑墓で、時期的にも長期に渡って墓地形成が続いたことがうかがわれる。



遺跡位置図 (1/5,000)



石棺、土壙墓完掘状況



元宮遺跡1、2、6次調査区遺構配置図 (1/200)

3) 試掘・立会調査、照会の概要

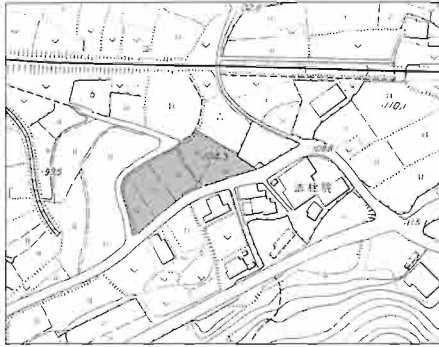
表3 試掘・立会調査一覧表

遺跡名	事業目的	調査場所	開発面積	調査面積	調査期間	遺跡の時代	検出遺跡	出土遺物	調査所見
20 日高遺跡隣接地	店舗建設工事	日高字シブカワ2317-1ほか	2670㎡	30㎡	120420	-	なし	なし	工事実施
21 日田条里上手地区6次	貸店舗新築造成工事	三和字喜四郎158-3ほか	1946㎡	36㎡	120516	-	なし	須恵器	工事実施
22 陣ヶ原遺跡	牧場建設	高瀬字辻原1794-1ほか	2900㎡	20㎡	120523~120525	-	なし	なし	工事実施
23 惣田遺跡	遺跡建設事業	高瀬字惣田971-1	4500㎡	15㎡	120525	-	なし	土師器 須恵器少量	工事実施
24 日高遺跡	分譲地建設	日高中職1588-1	615㎡	10㎡	120728	-	なし	なし	工事実施
25 尾部田遺跡	宅地分譲開発	小迫字尾部田	1303㎡	30㎡	120803	弥生・中世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	弥生土器 土師器	発掘調査実施
26 長者原遺跡5次	造成工事	内河野字杉園65-4	509㎡	10㎡	120808	-	なし	なし	工事実施
27 今泉遺跡	道路建設工事	友田字今泉	116㎡	12㎡	120831	古代・中世	柱穴、礎石 土坑	土師器少量	発掘調査実施
28 会所宮遺跡	宅地造成工事	田島字畑江690-4ほか	675㎡	10㎡	120831	古墳時代	なし	須恵器	工事実施
29 日田条里遺跡	宅地造成工事	田島字飛矢215ほか	782㎡	10㎡	120919	-	なし	なし	工事実施
30 八田遺跡隣接地	中山間地域総合整備	東有田字鹿倉	30000㎡	55㎡	121002	-	なし	なし	工事実施
31 用松中村、朝日宮ノ原遺跡	畑地帯総合整備事業	三和、山田、小迫(里道)	26500㎡	122㎡	121012~121018	弥生時代	住居址、土坑 柱穴	弥生土器	
32 葛原遺跡J区	広域農道整備事業	西有田字葛原ほか	4917㎡	218㎡	121030~121107	縄文・古墳	竪、集石遺構 柱穴	縄文土器 石器 須恵器	発掘調査実施
33 日田条里桑ノ本地区	宅地分譲工事	渡里字桑の本1012-1ほか	813㎡	20㎡	121107	-	なし	土器	工事実施
34 日田条里郷端地区	児童館建設工事	中城町210-1	813㎡	15㎡	121109	-	なし	土器	工事実施
35 日田条里佐屋ノ元地区	貸店舗建設工事	渡里字佐屋ノ元3-1ほか	2800㎡	20㎡	121113	-	なし	なし	工事実施
36 足ヶ迫遺跡隣接地	農協倉倉新築工事	花月字更原2707-10ほか	3029㎡	55㎡	121116	-	なし	なし	工事実施
37 日高遺跡隣接地	ログハウス工事	日高字2325-1	5503㎡	40㎡	121118	-	なし	なし	工事実施
38 本村遺跡3次	開発宅地造成工事	渡里字本村936-1ほか	1301㎡	15㎡	121112~121122	弥生・古墳	竪穴住居址 土坑、殿造遺構	弥生土器 須恵器 土師器	発掘調査実施
39 大部遺跡隣接地	無縁基地局建設	日高字恵良2570番2	63㎡	7㎡	121122	中世~近世	水田層	土器片	工事実施
40 日田条里岩ノ下地区	住宅用途廃止	渡里字岩ノ下1237-3	212㎡	10㎡	121124	-	中世水田跡	土器片	工事実施
41 八田遺跡隣接地	中山間地域総合整備	東有田字灰塚5915ほか	34000㎡	15㎡	121127	-	なし	なし	工事実施
42 高瀬条里深野田地区	市道改良工事	高瀬字深野田950-1	4500㎡	10㎡	121128	縄文・中世	柱穴、土坑	土器	発掘調査実施
43 惣田遺跡8区	宅地造成工事	高瀬字惣田970-2	1586㎡	27㎡	121129~121130	-	溜物包含層	石器、土器	工事実施
44 日田条里内堀地区	運動場武道場新造改築	西有田字内堀156	1674㎡	17㎡	121203	-	水田層	なし	工事実施
45 西有田赤ハゲ遺跡隣接地	広域農道整備事業	西有田字京塚ほか	1550㎡	16㎡	121207	-	なし	なし	工事実施
46 財津古城跡	無縁基地局建設	花月字上ノ山587-5	404㎡	5㎡	121226	-	なし	なし	工事実施
47 求来里平島遺跡隣接地	県営公園整備事業	求来里字小西1350外	246000㎡	298㎡	130316~130329	-	竪穴住居跡 土坑、溝、柱穴	打製石斧 石鏃 弥生土器 土師器 須恵器 輸入陶磁器 銭貨 (開元通寶)	発掘調査実施

表4 書類審査のみの照会一覧

受付月日	事業目的	予定場所	予定場所	開発面積
2000/5/23	民間	家屋増築工事	小迫字左京平1122-1ほか	741㎡
2000/5/25	民間	宅地分譲開発	求来里字東七双支104-1ほか	1120㎡
2000/5/30	民間	駐車場	三本松一丁目字159-39、165-5	1162㎡
2000/6/15	民間	リサイクルセンター	花月字土用平3124-1ほか2筆	2500㎡
2000/6/26	民間	家屋新築工事	庄手字松山369-3ほか	323㎡
2000/9/26	民間	宅地造成工事	十二町字水町671-4ほか	1300㎡
2000/10/16	民間	無縁基地局建設	有田字小河内2946-4ほか	405㎡
2000/12/5	公共	住宅建替工事	小迫字小迫ノ上352-31ほか5筆	12103㎡
2000/12/8	公共	道路改良工事	上城内町1107-5ほか	8000㎡
2000/12/12	民間	ケアハウス(駐車場)	求来里字重岡507-2.3.4.608-4ほか	2664㎡
2000/12/13	民間	家屋増築工事	高瀬字鏡湖49-2ほか	447㎡
2000/12/25	民間	用地造成	二筆字石原田761-2	1606㎡
2001/1/10	公共	市道改良事業	日高字	4738㎡
2001/1/23	公共	公園整備事業	庄手字559ほか	500㎡
2001/2/15	民間	宅地造成工事	西有田字桑ノ本249-1ほか	1075㎡
2001/2/19	民間	宅地造成工事	渡里字小見取1125-1ほか	1414㎡
2001/2/22	民間	新規変電所新設工事	本町字618-1ほか	1943㎡

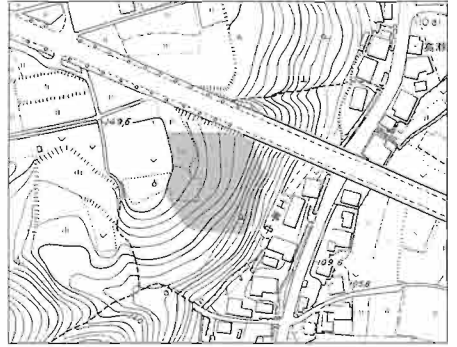
試掘・立会調査位置図



日高遺跡隣接地 (1/5,000)



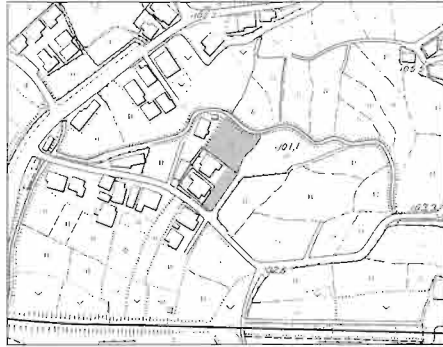
日田条里上手地区6次 (1/5,000)



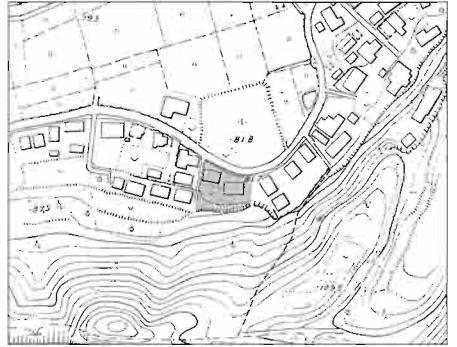
陣ヶ原遺跡 (1/5,000)



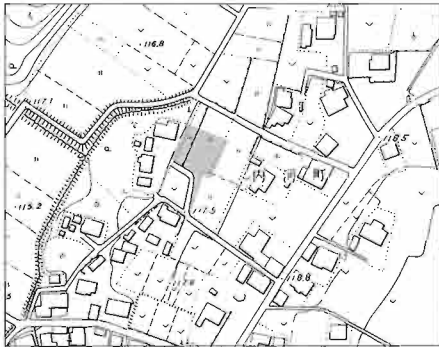
惣田遺跡 (1/5,000)



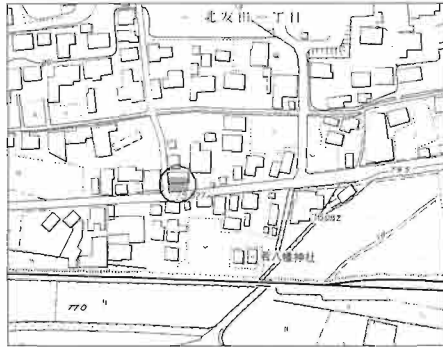
日高遺跡 (1/5,000)



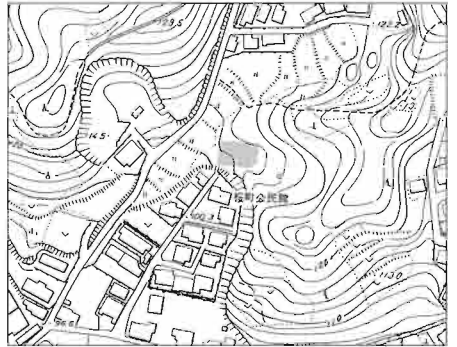
尾部田遺跡 (1/5,000)



長者原遺跡5次 (1/5,000)



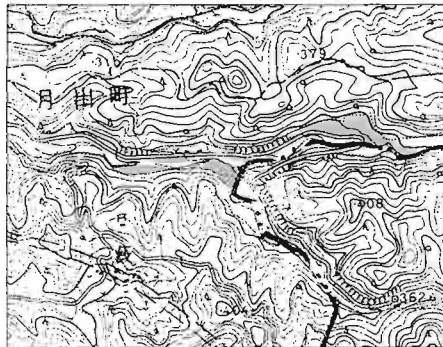
今泉遺跡 (1/5,000)



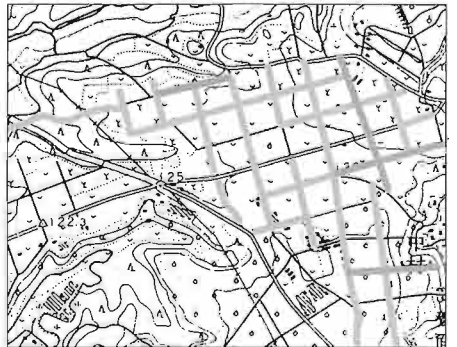
会所宮遺跡隣接地 (1/5,000)



日田条里遺跡 (1/5,000)



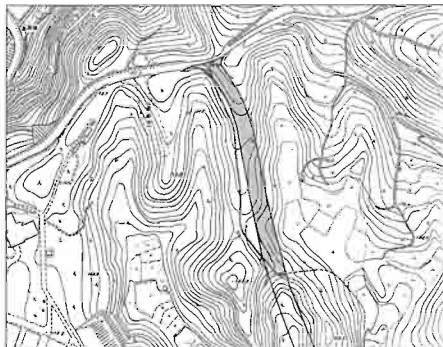
八田遺跡隣接地 (1/25,000)



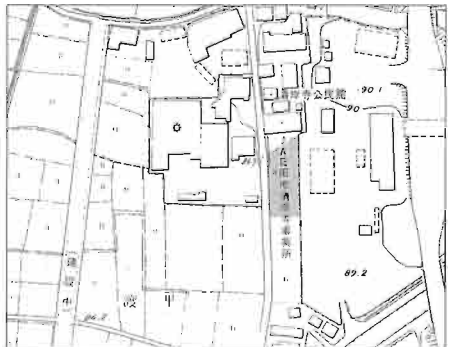
用松中村遺跡 (1/25,000)



朝日宮ノ原遺跡 (1/5,000)



葛原遺跡 (1/10,000)



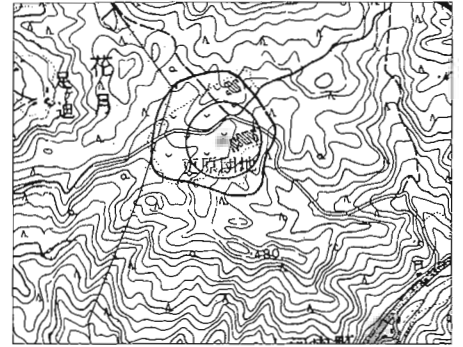
日田条里桑ノ本地区 (1/5,000)



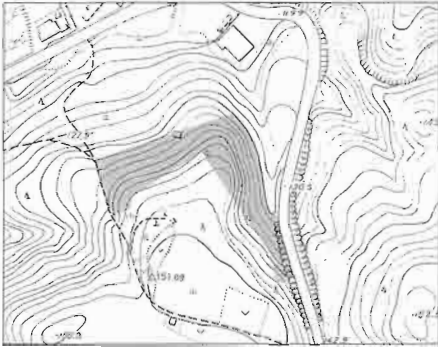
日田条里堀畑地区 (1/5,000)



日田条里佐屋ノ元地区 (1/5,000)



足ヶ迫遺跡隣接地 (1/25,000)



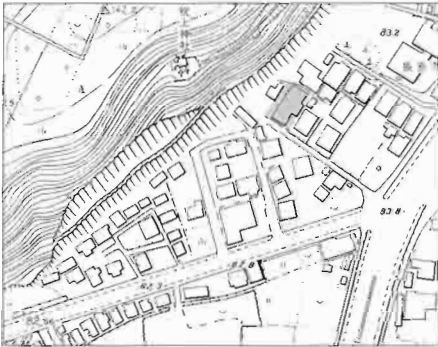
日高遺跡隣接地 (1/5,000)



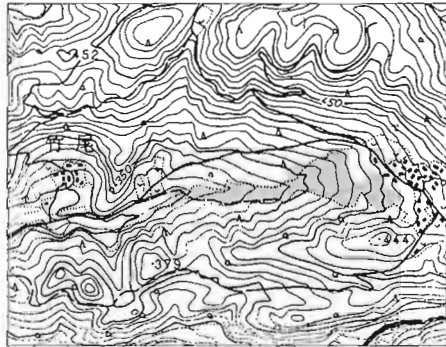
本村遺跡3次 (1/5,000)



大部遺跡隣接地 (1/5,000)



日田条里岩ノ下地区 (1/5,000)



八田遺跡隣接地 (1/25,000)



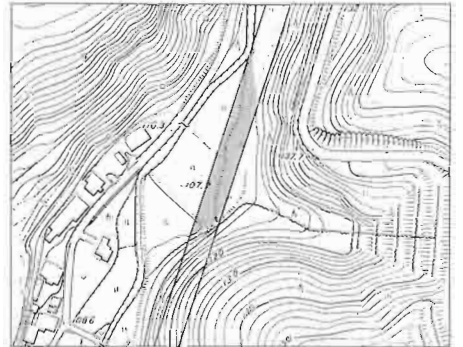
高瀬条里深野田地区 (1/5,000)



惣田遺跡8区 (1/5,000)



日田条里内堀地区 (1/5,000)



西有田赤ハゲ遺跡隣接地 (1/5,000)



財津古城跡 (1/25,000)



求来里平島遺跡隣接地 (1/10,000)

II 平成10年度の埋蔵文化財保護事業

1. 三郎丸古墳 -石室崩壊防止のための緊急調査-

所在地 大字友田字三郎丸1941
担当者 行時志郎・若杉竜太・渡邊隆行

調査面積
調査期間 120605~120607、130317

保存・修理の概要

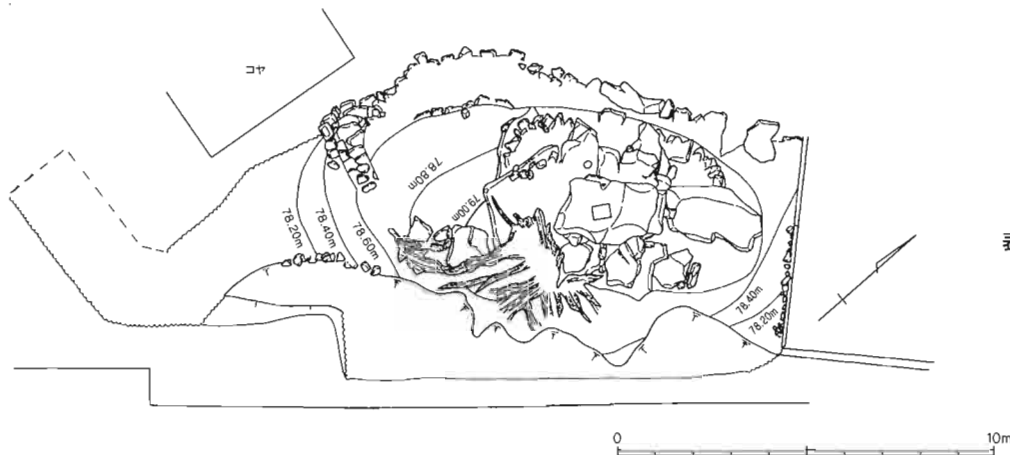
三郎丸古墳は花月川と三隈川の合流点付近の右岸に位置する。古墳の南西約100mには盆地内いくつか見られる独立丘陵の1つである星隈山には横穴墓群があり、44基の開口が確認されている。

古墳は現在、市の指定文化財となっている。古墳は4月時点で石室天井石の一部が崩落し、辛うじて側壁の石と天井石がかみ合い、落下を免れている状況であった。その応急処置として、石室内に真砂土を入れ、石室が壊れないように保護した。その後、3月には古墳の現状測量を行い、崩落の原因となっていた墳丘上の大木の一部を伐採し、崩れている古墳の東側にこれ以上崩れないよう、土止め工事を実施した。

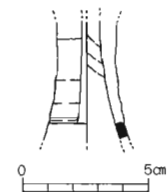
また、調査中に墳丘において、須恵器高杯の脚部片を採集した。脚部の透かしは上段と下段の一部が残存しており、残存状況から長方形の2段で、3カ所と考えられる。外面には沈線と回転ナデ、内面はシボリ目、回転ナデが見られる。時期は6世紀後半と考えられ、古墳の築造的を考える上で参考となる。



遺跡位置図 (1/5,000)



墳丘測量図 (1/200)



表採須恵器実測図 (1/3)



表採須恵器



墳丘現状風景



工事完了後風景

2. 元大原宮宝篋印塔の修理・移築

所在地 求来里字元宮432-1

担当者 行時志郎・吉田博嗣・若杉竜太・渡邊隆行

調査面積

調査期間 130305~130307、130314~130330

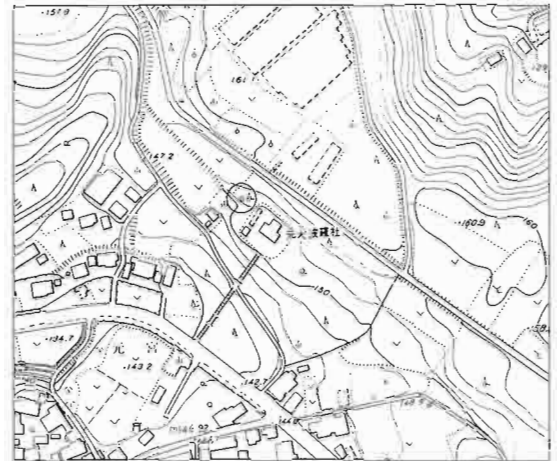
保存・修理の概要

元大原宮宝篋印塔は、元大原宮社殿西側の丘陵裾部に2基があり、南側にある1基は完全な形を残し、北側の1基は塔身・格狭間・笠のみが残っている。この北側の格狭間には、貞和3年（1347）の造立年月日と願主である西園・妙仙、造った人物である一乗の名が墨書で記されており、造立年代のわかる日田市の数少ない石造文化財として、昭和57年5月11日に市有形文化財の指定を受けている。

その後この塔は、平成3年に九州地方を直撃した台風19号により、塔南側にあった杉の巨木が倒れてそのまま南側の塔を直撃したため倒壊し、格狭間や風輪、基礎、塔身のほとんどが破損したため、急遽同年に保存修理を実施している。

今回も、平成11年の台風18号により、塔西側にあった杉の巨木が根こそぎ倒れ、その反動により塔のある地面が持ち上がってしまい、再び南側の塔が倒壊してしまった。このため、平成12年度に現状の記録作成を行い、地慣らしを行った後、保存修理工事を行うことにした。ところが、記録作成後に地山整地の段階で、基礎の下から遺構・遺物の出土があったため、整地すれば一部カットになることから、ともかく遺構の確認のための調査を急ぐこととなった。その結果として、銅銭（寛永通寶）や土師質土器小皿、恵比寿型土製品、銅板など造立年代とは異なる時期的にも新しい近世の遺物が出土した。その後、元大原宮の氏子総代の方々と塔をもとの場所に戻すかどうか協議し、現状の場所では、また杉の倒壊により破損する恐れもあるため、現地点より東側の境内の中に移転する運びとなった。また塔のあった場所には、応急処置として、真砂土を入れて現状のまま残すことにした。

この遺構より出土した遺物は1～13が土師質土器小皿で、ロクロ整形を行うものの、大半には指頭圧病が残る。14は糸切り底の土師皿で、15は恵比寿型土製品である。これらの遺物は多数出土しており、その他にも銅銭（寛永通寶）や鉄釘、銅板などが見られた。



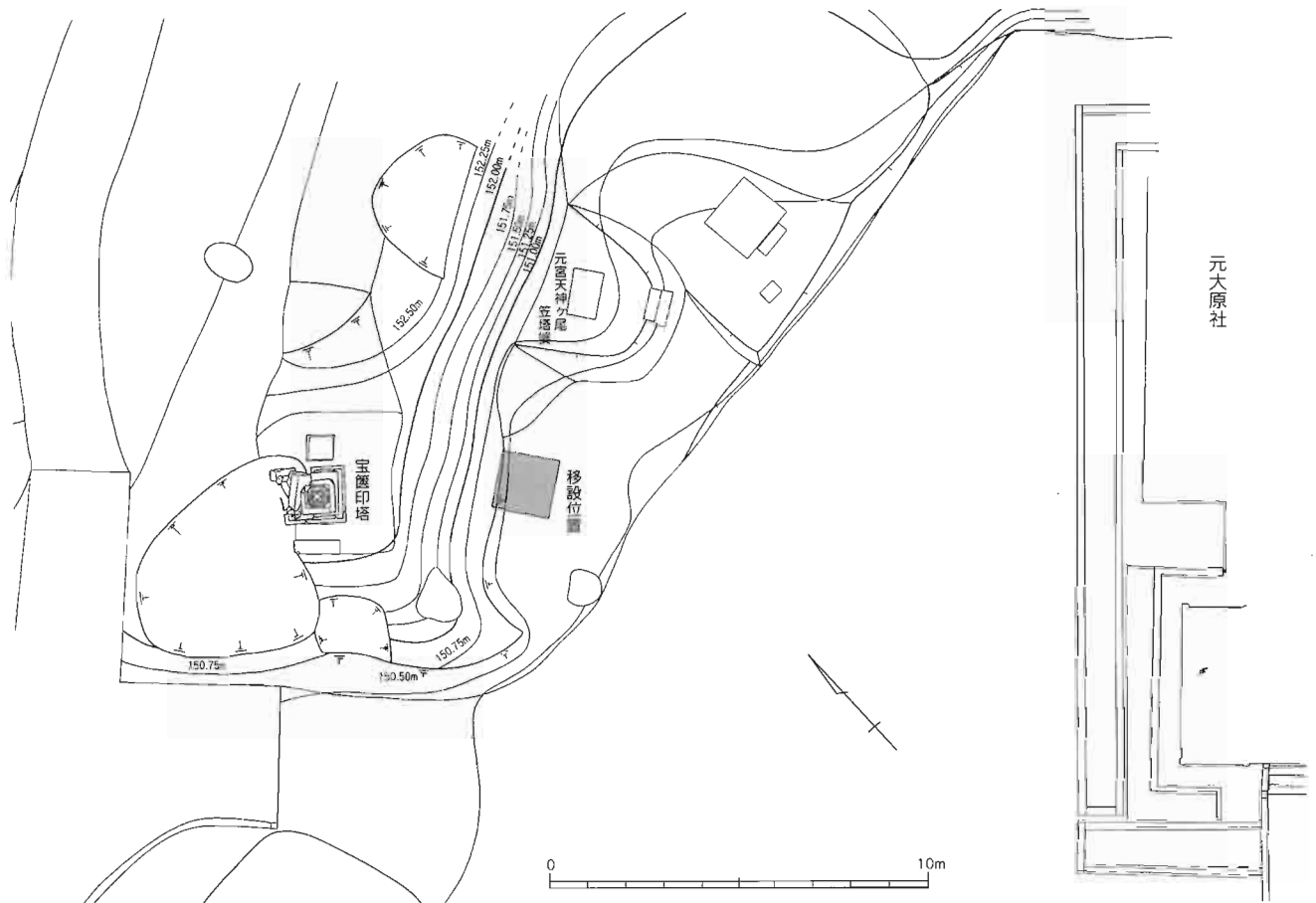
遺跡位置図 (1/5,000)



宝篋印塔現況



宝篋印塔修復・移設後



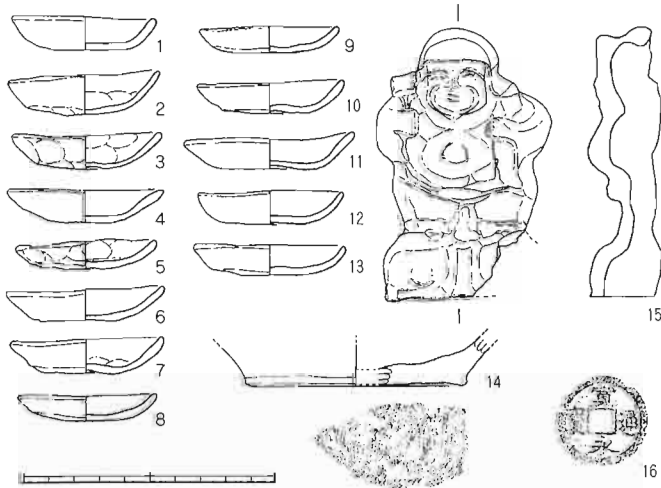
周辺地形図 (1/200)



遺構掘り下げ状況



銅板出土状況



出土遺物実測図



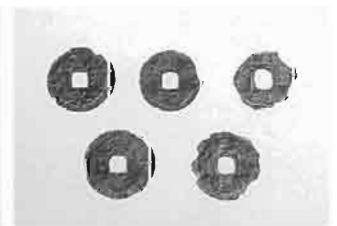
土師質小皿



土製品



鉄釘



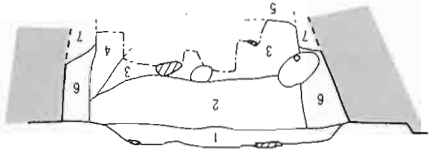
銅銭

1. 淡茶褐色土
2. 暗褐色土+黄褐色ブロック土、この上層に遺物を多く含む
3. 黄褐色ブロック土+ややしまり強く粘性強い(石、銅銭等多く含む)
4. 暗茶褐色土、やわらかい
5. 暗黒褐色土、しまりなくやわらかい
6. 黄茶褐色粘質土、粘性強い
7. 黄褐色土、地山ブロックと同一

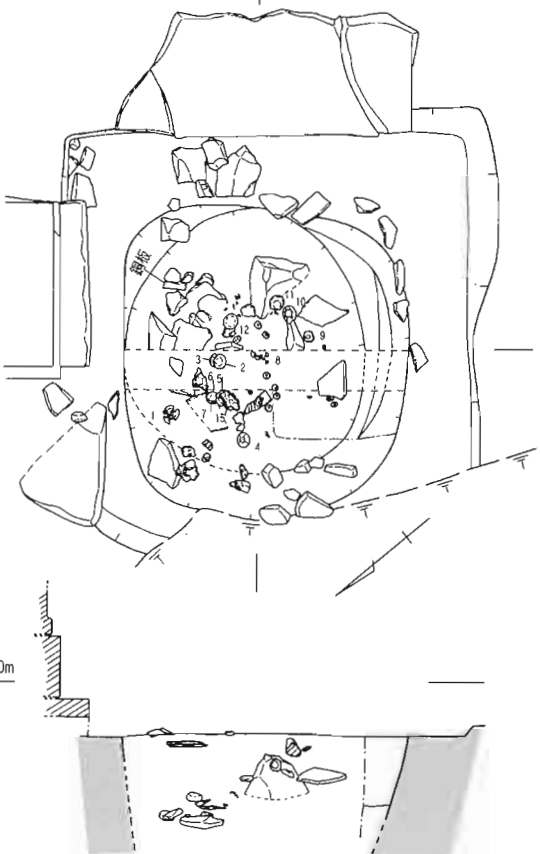
3. 4層 木棺崩落土
- 5層 木棺腐植土
6. 7層 木棺裏込め粘土



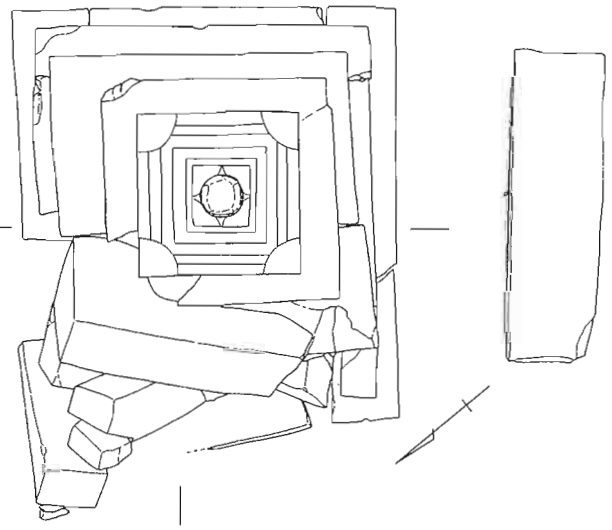
土層



152.20m

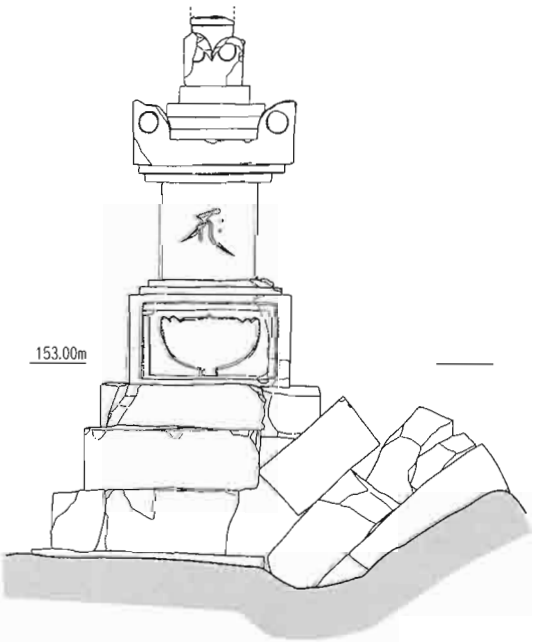


152.20m



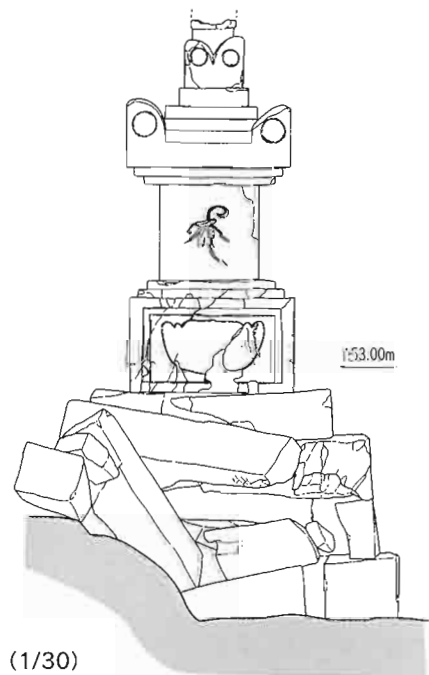
0 1m

北東側面



153.00m

北西側面



153.00m

宝篋印塔実則図 (1/30)

Ⅲ 平成12年度の埋蔵文化財普及・啓発活動

1) 長者原遺跡4次調査現地説明会

長者原遺跡の調査成果（詳細p6）の内容と意義について広く一般に公開する目的で、平成12年7月22日（土曜日）に長者原遺跡の現地説明会を市教委の主催で開催した。午前と午後の2回に分けて行い、合わせて122名の参加があった。当日は4次調査で発見された弥生時代後期～古墳時代初頭の環濠、竪穴石室、石棺墓、及び出土遺物を前にして、その詳細と長者原遺跡における弥生時代の環濠集落、及び古墳時代の墓域の存在意義について、市教委担当者が説明にあたった。



現説風景1



現説風景2

2) 大肥郷で弥生時代の稲穂摘み体験

大肥郷ふるさと振興会が、平成12年10月22日（日曜日）に、大明地区の小学生を対象に行った稲刈り体験の一環として企画主催したものに市教委が賛同、協力して実施したものである。大明地区の親子約40名の参加があった。

当日は、弥生時代の衣装に扮した市教委担当者が弥生時代の米作りについての説明を行ったあと、現代の稲刈りとの比較なども行いながら、実際に弥生時代の衣装を着て、石包丁を使った稲穂摘みを行った。



稲穂摘み風景

3) 平成12年度の刊行物一覧

	書名	巻次	体裁	総ページ	内容
1	三和教田遺跡D地点	24	A4	12	宅地分譲造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、旧石器時代の石器、弥生時代中期の遺構を所収。
2	元宮遺跡	25	A4	24	福祉施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、古墳時代後期の墓、中世の塚、笠塔婆等を所収。
3	山ノ口遺跡	26	A4	8	資材置場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、縄文時代晩期の土器・石器、中世の土器等を所収。
4	三和教田遺跡G地点	27	A4	8	宅地分譲造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、弥生時代、古墳時代の遺構を所収。
5	平島遺跡D地点 塔ノ本古墳 祇園原遺跡2次 長迫遺跡C地点 長迫遺跡D地点 尾漕遺跡6次	28	A4	139	市道田島有田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果を所収。 平島遺跡D地点…弥生時代後期の甕棺墓、古墳時代後期の円墳を所収。 塔ノ本古墳…古墳時代後期の円墳を所収。 祇園原遺跡2次…弥生時代の建物、近世の礎等を所収。 長迫遺跡C地点…古墳時代～古代の集落遺構の概要報告を所収。 長迫遺跡D地点…古代の住居跡等を所収。 尾漕遺跡6次…古墳時代の住居跡、近世の建物群を所収。
6	大波羅遺跡	29	A4	106	都市計画街路城町高瀬線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、弥生時代の溝、古墳時代の溝、古代の建物、溝等を所収。
7	尾漕遺跡	30	A4	113	池辺地区泉宮圃地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、縄文時代～中世の遺構を所収。
8	呂田条里上手地区5次	31	A4	6	宅地分譲造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、中世の遺構を所収。
9	川原田遺跡	32	A4	16	泉宮広域営農圃地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果、中世の建物、墓等を所収。

IV 平成12年度埋蔵文化財センター受領図書一覧

書名	寄贈者	刊行年	書名	寄贈者	刊行年
東京都 谷中三崎町遺跡(正運寺跡) 明治大学博物館研究報告第5号	台東区文化財調査会 明治大学博物館事務室	2000 2000	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅳ(図版編)	福岡教育委員会	1974
埼玉県 奥の山古墳・瓦塚古墳・中の山古墳	埼玉県教育委員会	1989	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅴ	"	1974
徳島県 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要9 阿波国府跡発掘調査報告書	徳島市教育委員会 "	1999 1999	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅵ	"	1975
大阪府 要覧平成12年度	財大阪府文化財調査研究センター	2000	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査概報	"	1975
郡戸遺跡の調査	"	2000	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第3集(2)	"	1976
発掘速報展大阪2000	大阪府立弥生文化博物館	2000	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集(図版編)	"	1976
高槻市文化財年報平成10年度	高槻市教育委員会	2000	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集	"	1976
史跡・今城塚古墳10年度・第2規模確認調査	"	1999	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第1	"	1976
嶋上遺跡群24	"	2000	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第2	"	1976
史跡・今城塚古墳11年度規模確認調査	"	2000	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅶ	"	1976
安満宮山古墳	"	2000	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第4集上巻	"	1977
堺市文化財調査概要報告第84冊	堺市教育委員会	2000	山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第4集下巻	"	1977
今里大塚古墳第3次調査概要井ノ内車塚古墳第3次調査概要	大阪大学井ノ内車塚古墳調査団	2000	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第5集	"	1977
昼飯大塚古墳Ⅴ	大阪大学昼飯大塚古墳発掘調査団	1999	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第6集(3)	"	1977
京都府 京都府埋蔵文化財情報第75~78号	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	2000	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第6集図版	"	1977
大福遺跡調査報告	財桜井市文化財協会	1995	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第7集	"	1977
桜井市内埋蔵文化財1992年度発掘調査報告書1、2	"	1993~1994	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第8集(4)	"	1978
桜井市内埋蔵文化財1994年度発掘調査報告書1	"	1995	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第8集(下)	"	1978
桜井市内埋蔵文化財1995年度発掘調査報告書1	"	1996	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第8集(下)付図1図~9図	"	1978
平成7年度国庫補助による発掘調査報告書滋賀県	"	1996	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告ⅩⅩ	"	1978
史跡衣川廃寺跡整備事業報告書	大津市教育委員会	2000	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告ⅩⅩ付図	"	1978
坂本遺跡発掘調査報告書	"	1989	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査概報	"	1979
北山田遺跡発掘調査報告書	"	1992	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査概報Ⅱ	"	1980
愛媛県 東雲神社遺跡	松山市教育委員会	2001	若宮宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告書第3集	"	1980
斎院の遺跡Ⅱ	"	2001	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第9集総集編	"	1980
小野地区の遺跡	"	2001	二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告1	"	1980
東野中畦遺跡	"	2001	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告1	"	1982
松山市埋蔵文化財調査年報12 平成12年度	"	2001	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第6集上巻	"	1982
岩崎遺跡-本文・図版編-	松山市教育委員会埋蔵文化センター	1999	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第6集下巻	"	1982
太山寺経田遺跡-1~5次調査-	"	1999	今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第7集	"	1982
松山市道「平井・水泥線」関連遺跡古市遺跡下苅屋遺跡-2・3次調査-	"	2000	野間遺跡群	"	1982
来住・久米地区の遺跡Ⅲ	"	2000	筑前秋月荒平城跡	"	1982
大洲遺跡-3次調査-	"	2000	二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ	"	1982
松山市考古館開館10周年記念平成11年度特別展(繚乱の時)	松山市考古館	1999	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告2	"	1983
山口県 研究紀要第4号	下関市立考古博物館	2000	八木山バイパス関係埋蔵文化財調査報告塚堂遺跡Ⅰ	"	1983
下関市立考古博物館年報5平成11年度	"	2000	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告5	"	1984
向田遺跡	財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター	2000	塚堂遺跡ⅡA地区	"	1984
東禅寺・黒山遺跡Ⅴ	"	2000	塚堂遺跡ⅢE地区	"	1984
福岡県 福岡県伯玄社遺跡調査概報	福岡県教育委員会	1968	今宿高田遺跡	"	1984
片山古墳群	"	1970	東・太田遺跡	"	1985
福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第1集	"	1970	草場河床遺跡	"	1985
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ	"	1971	塚堂遺跡ⅣD地区(第1分冊)	"	1984
今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第2集	"	1971	塚堂遺跡ⅣD地区(第2分冊)	"	1985
福岡県三井郡小郡遺跡発掘調査概報	"	1971	台の原遺跡	"	1986
日上遺跡	"	1971	千鳥古墳群Ⅱ	"	1987
峠山遺跡	福岡県教育委員会	1973	箱崎遺跡	"	1987
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅲ	"	1972			
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅲ(付図)	"	1972			

書名	寄贈者	刊行年	書名	寄贈者	刊行年
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告10~12	"	1987	東那珂4島田1	福岡市教育委員会	2000
牛竈跡群	"	1988	那珂24、25、36	"	2000
塚堂遺跡VE地区(1・3~6地点)	"	1988	板付周辺遺跡調査報告書第21集	"	2000
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告14、15上・下	"	1988	南八幡遺跡5	"	2000
矢留遺跡	"	1989	笹原2	"	2000
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告16~19	"	1990	麦野C遺跡	"	2000
犬鳴I	"	1990	井尻B遺跡7、8	"	2000
山家人形原遺跡	"	1990	日佐遺跡	"	2000
井牟田古墳群	"	1991	田島小松浦遺跡第1次調査田島A遺跡	"	2000
犬鳴II	"	1991	梅林遺跡第1次調査	"	2000
奈良尾遺跡	"	1991	有田・小田部33、34、35	"	2000
津留遺跡	"	1991	吉武遺跡群VII	"	2000
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告20、21	"	1991	入部X	"	2000
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告22~24	"	1992	内野遺跡	"	2000
金屋遺跡	"	1992	J R筑肥線複線化地内遺跡埋蔵文化財調査報告書	"	2000
荒堀雨久保遺跡	"	1992	周船寺遺跡群3	"	2000
遺跡詳細分布調査報告書	"	1992	小田C遺跡	"	2000
戸原堀ノ内遺跡	"	1993	井相田C遺跡5	"	2000
砥上上林遺跡I	"	1993	久原瀬ケ下	"	2000
小柳遺跡	"	1993	皆見樋ノ口遺跡	"	2000
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告25~27	"	1993	豊前国府跡惣社地区I	"	2000
日永遺跡I	"	1993	福岡市埋蔵文化財センター年報第19	"	2000
辻垣ヲサマル遺跡	"	1993	福岡市埋蔵文化財年報Vol.13	"	2000
菟ギ坂古墳群	"	1993	平成10年度(1998年度版)	"	2000
久富市ノ玉遺跡	"	1993	埋蔵文化財調査室年報16平成10年度	福北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	2000
高高原口遺跡	"	1993	研究紀要第14号	"	2000
下唐原居屋敷遺跡	"	1993	貫・丸尾遺跡	"	2000
池ノ本遺跡II	"	1993	片野遺跡	"	2000
辻垣田・長道遺跡	"	1994	脇田丸山遺跡2	"	2000
団後遺跡・西一丁目遺跡・灰山遺跡	"	1994	高槻遺跡第9地点	"	2000
日永遺跡II	"	1994	高坊遺跡(第1次調査)	"	2000
堺町・大碓遺跡	"	1994	堅町遺跡第1地点	"	2000
前田遺跡	"	1994	小倉城跡第3地点	"	2000
草野古川遺跡	"	1994	高槻遺跡第10地点	"	2000
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告28~32	"	1994	上貫遺跡(C)3	"	2000
千拓遺跡(旧柳河藩領)	"	1994	長野小西田遺跡	"	2000
栗崎遺跡	"	1995	上横代遺跡	"	2000
三毛門放生田遺跡	"	1995	丸ノ内遺跡	"	2000
新延貝塚	"	1995	北方遺跡第7次調査	"	2000
久良々遺跡・倉良遺跡・天神田遺跡	"	1995	長野フンテ遺跡1・2・3区の調査	"	2000
飯塚南遺跡	"	1995	丸ノ内南遺跡	"	2000
徳永川ノ上遺跡I # 1995	"	1995	行正遺跡	"	2000
上唐原遺跡I	"	1995	研究紀要7、8	北九州市立歴史博物館	1999~2000
宇野代遺跡	"	1995	北九州市立歴史博物館年報22~23	"	1999
鋤先遺跡	"	1995	平成9、10年度	"	1998
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告33上・下巻、34、35、36、37	"	1995	再見城下町小倉	"	1999
居屋敷遺跡	"	1996	広寿山福樂寺の名品展	"	1999
徳永川ノ上遺跡II本文・図版	"	1996	新選取藏品展	"	2000
中村石丸遺跡上・下巻	"	1996	粹~男の遺具だて~	"	1999~2000
徳永川ノ上遺跡III本文・図版	"	1997	博物館だより20、21	"	2000
鷹取五反田遺跡I上・下巻	"	1998	豊国名所	"	2000
船越二ノ上遺跡	"	1999	平原遺跡	前原市教育委員会	2000
鷹取五反田遺跡II上・下巻	"	1999	須玖岡本遺跡発見100周年記念展	春日市奴国の丘資料館	2000
船越高原A遺跡I	"	2000	合政遺跡群	那珂川町教育委員会	1999
仁右衛門畑遺跡I	"	2000	中原・ヒナタ遺跡群	"	2000
船越高原A遺跡II	"	2000	大蔵池遺跡群、後野・山ノ神前遺跡群	"	2000
上唐原了清遺跡II	"	2000	観音山古墳V	"	2000
西新町遺跡II	"	2000	前田遺跡群III	"	2000
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報平成9年	福岡県教育委	2000	安德台	太宰府市教育委員会	1999
特別史跡王塚古墳の保存	福岡県文化財調査会	1975	筑前国分寺跡II	"	1999
香椎B遺跡本文・図版編	福岡市教育委	2000	馬場遺跡	"	1999
香椎A遺跡2	"	2000	太宰府条坊跡X I、X II、X III	"	1999
部木古墳群	"	2000	太宰府・佐野地区遺跡群IX	"	1999
吉塚祝町1	"	2000	横岳遺跡	"	1999
箱崎9比恵藝館遺跡	"	2000	御笠団印出土地周辺遺跡I	"	2000
堅粕4	"	2000	太宰府条坊跡X IV、X V	"	2000
博多69、70、71、72、73、74	"	2000	太宰府・佐野地区遺跡群X	"	2000
上月隈遺跡群2、3	"	2000	九州自動車道筑紫野I・C	筑紫野市教育委員会	1999
雀居遺跡5	"	2000	太宰府条坊跡	"	1999
東比恵三丁目遺跡	"	2000	大坪遺跡	"	1999
			史跡杉塚庵寺	"	2000
			原田地区遺跡群	"	1993
			第24回くまの考古資料展	久留米市教育委員会	1999

番 名	寄 贈 者	刊行年	書 名	寄 贈 者	刊行年
神道遺跡第18次調査	久留米市教育委員会	1999	枝去木分校入口遺跡	"	2000
庄島侍屋敷遺跡第4次調査	"	1999	菜畑内田遺跡(3)	"	2000
筑後国府跡第162・164次調査報告	"	1999	野原遺跡	"	2000
鳥飼小学校校庭遺跡	"	1999	久池井五本杉遺跡(1・2次調査)	大和町教育委員会	1999
木塚遺跡第5次調査	"	1999	池上三本松遺跡	"	2000
筑後国府跡	"	2000	山村家文書日録	玄海町教育委員会	2001
今泉遺跡第5次調査	"	2000	武雄市内古窯跡群発掘調査報告書・ (竇ノ窯跡)	武雄市教育委員会	2000
金丸遺跡	"	2000	長崎県		
平成11年度久留米市内遺跡群	"	2000	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	長崎県教育委員会	2000
山川前田遺跡	"	2000	出島和蘭商館跡	"	2000
三沢古賀遺跡2区	小郡市教育委員会	2000	瀬古窯跡	長崎市埋蔵文化財調査 協議会	2000
西島下庄原遺跡三沢運輸遺跡	"	2000		長崎市教育委員会	1999
上若田遺跡調査概報"2000	"	2000		"	1999
横隈上内畑遺跡2	"	2000	桜町遺跡	南有馬町教育委員会	2000
寺福童遺跡	"	2000	興善町遺跡	大村市教育委員会	2000
津古片曾葉遺跡2区	"	2000	原城発掘	"	2000
西森田遺跡2Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ地点	大刀洗町教育委員会	2000	長崎街道鎖国下の異文化情報路	"	2000
甲条神社遺跡Ⅱ	"	2000	黒丸遺跡ほか発掘調査概報Vol.2	"	2000
大刀洗飛行場燃料庫	"	2000	玖島城跡玖島川改修工事に伴う発掘調査	原の辻遺跡保存等 協議会	2001
堤当正寺古墳	甘木市教育委員会	2000	原の辻遺跡		
福嶽城跡"2000	"	2000	熊本県		
須川ノケオ遺跡	朝倉町教育委員会	1999	つつじヶ丘横穴群発掘調査概報Ⅳ	熊本市教育委員会	2000
朝倉町の古墳と埴輪付編"2000	"	1999	大江遺跡群Ⅲ	"	1997
朝倉林遺跡(2次調査)	八女市教育委員会	2000	神水遺跡Ⅲ	"	2000
一筆遺跡Ⅱ	"	2000	熊本市埋蔵文化財調査年報第3号 平成9 年度～平成10年度	"	2000
八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報	"	2000	宇土城跡(西岡台)Ⅲ	宇土市教育委員会	2000
白石遺跡	"	2000	鷹ノ城跡Ⅰ	南関町教育委員会	2000
埋蔵文化財調査概報Ⅱ	"	2000	阿蘇町遺跡地区阿蘇町遺跡詳細分布調 考古学研究室報告第34、35集	阿蘇町教育委員会	2000
羽犬塚寺ノ脇遺跡	筑後市教育委員会	2000	熊本大学埋蔵文化財調査年報6-1999 年度	熊本大学文学部考古 学研究室	1999
筑後東部地区遺跡群Ⅲ、Ⅳ	"	2000	大分県		
筑後西部地区遺跡群Ⅱ	"	2000	玉沢地区条里跡(グランジ地区・茨川 原近世墓地・田仲地地区)	大分県教育委員会	2000
筑後西部第2地区遺跡群(Ⅱ)	"	2000	県指定有形文化財其ノ田板碑	"	2000
上北島花畑遺跡	"	2000	中原舟久遺跡	"	2000
県指定川島古墳市指定川島古墳群	飯塚市教育委員会	1999	千塚西遺跡	"	2000
夫婦石遺跡	"	1995	森の木遺跡	"	2000
川島古墳群	"	1995	炭竈遺跡	"	2000
明星寺南地区遺跡群Ⅲ	"	1995	小野家墓地発掘調査報告書	"	2000
飯塚市内遺跡詳細分布調査報告書	"	1997	尾瀬遺跡(第2次調査区・第5次調査区)	"	2000
カクメ石古墳	"	1997	上ノ原平原遺跡	"	2000
上原遺跡	"	1999	治別当遺跡	"	2000
野毛尾遺跡	"	1999	四日市上ノ原横穴墓群	"	2000
明星寺遺跡Ⅲ	"	2000	瀬戸墳墓群瀬戸遺跡帆足城跡	"	2000
直方市内遺跡群Ⅰ	直方市教育委員会	2000	大分県埋蔵文化財年報8平成10(1998) 年度版	"	2000
西光寺遺跡	"	2000	六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅶ	大分県歴史博物館	2000
水町遺跡群	"	2001	豊後国安岐郷1国東半島荘園村落遺跡 詳細分布調査概報	"	2000
片山遺跡	"	2001	大分県立歴史博物館調査報告書第3集	"	1999
金台寺過去帳	"	2001	大分市歴史資料館年報平成9、10年度	大分市歴史資料館	1999~ 2000
芦屋町歴史民族資料館年報 平成11年度 第1号	芦屋町教育委員会	2000	大分市歴史資料館年報平成9、10年度	"	1999
勝浦	"	2000	Funai府内及び大友氏関係遺跡総合調査 研究年報Ⅶ	"	1999
扶間宮ノ下遺跡(遺構編)	津屋崎町教育委員会	2000	原遺跡七郎丸1地区・口寺田遺跡	国東町教育委員会	1999
豊前市の岩戸神楽豊前神楽入門	"	2000	安国寺遺跡	"	1999
豊前市内遺跡分布地図	"	2000	定留遺跡田畑地区・台遺跡	中津市教育委員会	2000
文化のかおるまちづくりをめざして	"	2000	小路遺跡・上屋敷遺跡	久住町教育委員会	2000
佐賀県	"	2000	市第Ⅳ遺跡・トウグ遺跡・立花遺跡	"	2000
東菴寺遺跡	佐賀県教育委員会	1994	大迫遺跡徳原地区原田第2遺跡原地区	千歳村教育委員会	2000
肥前国長嶋荘領関係史料集	"	1994	五郎丸近世墓地群	"	2000
若宮遺跡1・2区の調査	佐賀市教育委員会	2000	大迫遺跡徳原地区原田第2遺跡原地区	"	2000
若宮遺跡3区・4区	"	2000	三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ市場遺跡 (泉原地区)・竜ヶ嶽横穴墓群・竜ヶ嶽古墳 赤松・野田遺跡	三重町教育委員会	2000
村徳永遺跡13~16区の査	"	2000			
森田遺跡Ⅱ2~6区の調査	佐賀市教育委員会	2000			
増田遺跡群Ⅳ増田遺跡6区弥生時代墳墓 群の調査	"	2000			
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書	"	2000			
薬師森遺跡2区筑州遺跡1区	"	2000			
上九郎遺跡Ⅰ1区の調査	"	2000			
上和泉遺跡12区原ノ町遺跡4区	"	2000			
吉村遺跡群Ⅰ古村遺跡4区	"	2000			
徳永遺跡群Ⅲ徳永遺跡4・5・6区	"	2000			
則重遺跡(C地区)・古丸遺跡	鹿島市教育委員会	1996			
杉遺跡	"	1998			
旭ヶ岡遺跡・鹿島城跡	"	1999			
鹿島城跡・"2000	"	1999			
志田西山2・3・4号窯跡群調査概報	塩田町教育委員会	2000			
唐津市内遺跡確認調査(16)	唐津市教育委員会	2000			
笹牟田荒谷遺跡(Ⅰ)	"	2000			
岸高Ⅱ遺跡	"	1999			
笹牟田西山遺跡(Ⅲ)	"	2000			
			武蔵町の庚申塔	武蔵町教育委員会	2000
			佐伯城下町遺跡	佐伯市教育委員会	2000
			よみがえる角牟礼城	玖珠町教育委員会	2000
			アタタメ遺跡	"	2000
			坂口遺跡	"	2000
			角牟礼城跡	"	2000
			岸の上遺跡	耶馬溪町教育委員会	2001

書名	寄贈者	刊行年	書名	寄贈者	刊行年
宮崎県			国宝指定記念青銅器の世界	〃	1998
特別史跡西都原古墳群	宮崎県教育委員会	2000	山口		
鬼の窟古墳西都原205号墳	〃	2000	あやらぎ博物館だよりNo.3	下関市立考古博物館	2000
国衙跡保存整備基礎調査概要報告書Ⅳ	〃	2000	陶けん第12、13号	財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター	1999~2000
平成11年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	〃	2000			
宮崎県文化財年報平成11年度	〃	2000	熊本県		
神殿遺跡B・C地区南平第3遺跡南平第4遺跡中ノ原遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	1999	要覧平成12年度(第9号)	熊本県立装飾古墳館	2000
石用遺跡・友尻遺跡	〃	2000	近畿地方の装飾古墳平成12年度後期企画展「全国装飾古墳シリーズ6」	〃	2000
石塚城跡・鳥ノ子遺跡	〃	2000	大分県		
黒草第1・第2・第3遺跡 〃2000	〃	2000	別府大学紀要第41号	別府大学会	1999
上の原第2遺跡・上の原第1遺跡・上の原第4遺跡・白ヶ野第3遺跡A地区	〃	2000	アジア歴史文化研究所報第17号	別府大学アジア歴史文化研究所	2000
白ヶ野第3遺跡B地区	〃	2000	地域社会研究第1号	学校法人別府大学地域社会研究センター	1999
山中遺跡	〃	2000	地域社会研究第2号	〃	2000
竹ノ内遺跡	〃	2000	おおいの石橋	大分の石橋を研究する会	2000
大島島田遺跡	〃	2000	大分県立宇佐土記の丘歴史民俗資料館調査報告書台18集	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1996
平田追遺跡	〃	2000	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館研究紀要1998.3 Vol.1	〃	1998
島廻遺跡	〃	2001	大分県立歴史博物館研究紀要1	大分県立歴史博物館	2000
白ヶ野第1・第4遺跡	清武町教育委員会	1997	史料館研究紀要5号	〃	2000
滑川第1・第2遺跡-1-・滑川第3	〃	1998	大分県立歴史博物館年報1999	〃	2000
滑川第1遺跡-2-・滑川第2遺跡-1	〃	1999	おおいの歴史No.7~9	〃	2000~2001
山田第一遺跡・山田第二遺跡	〃	2000			
赤木遺跡発掘調査報告書	門川町教育委員会	2000	古代王権への道再発見九州島平成12年度特別展	〃	2000
諏訪廻第1遺跡	三股町教育委員会	2000	沖縄県		
ズクノ山第2遺跡F地区	宮崎郡田野町教育委員会	2000	沖縄県史ビジュアル版2港川人と旧石器時代の沖縄	沖縄県教育委員会	1999
	〃	2000	沖縄県史ビジュアル版7具の道	〃	2001
本野遺跡(2)	〃	2000			
高野原遺跡(A区)、B・C区(1)、(E~G区)	〃	2000	その他		
平成11年度日南市内遺跡発掘調査概報	日南市教育委員会	2000	文化財(美術工芸品等)の防災に関する手引き	文化庁文化財保護部	1997
鉄肥の町並み保存20年間の記録	〃	1998	重要文化財(建造物)耐震診断指針	〃	2000
日南市文化財マップ	〃	2000	伝統文化を活かした地域おこしに関する調査報告書	〃	2000
石河内本村遺跡	木城町教育委員会	2000	文化財修理報告書Vol.2(2000)	楽浪文化財修理所	2000
鹿児島県			人類誌集報2000	東京都立大学人類誌調査グループ	2000
国史跡隼人塚山跡遺跡発掘調査概報	隼人町教育委員会	1998	京都古書籍・古書画資料目録第1号	京都府古書籍商業協同組合後援	2000
			九州の埴輪その変換と地域性第3回九州前方後円墳研究会	九州前方後円墳研究会	2000
歴史			古代律令国家と海部の光芒中安遺跡の語るもの(資料集)	大分県考古学会事務局	2000
東京都			中安遺跡をめぐる新聞報道記録	〃	2000
歴史読本2000年11月号	新人物往来社	2000	文化財保存修復学会第22回大会講演要旨集	別府大学文化財保存修復学会	2000
伝統と文化No.24	勸業文化振興財団	2000	「比多考古」創立10周年記念特集・第8号	日田考古学同好会	2000
倭人伝の国々	(株)学生社	2000			
ものづくりの考古学原始東京美術2001					
千葉県					
山武考古学研究所年報No.18 平成12年業務経歴昭和46年度~平山10年度研究所案内	山武考古学研究所	2000			
死・葬送・墓制資料集成西日本編1、2 国立歴史民俗博物館研究報告第83、84、85集	〃	1999			
神奈川県					
泰野市立桜土手古墳展示館だより Vol.1.18	泰野市立桜土手古墳展示館	2000			
泰野の古墳平成11年度特別展	〃	1999			
富山県					
高岡御車山華やかな神の座	高岡市教育委員会	2000			
奈良県					
埋蔵文化財ニュース95~104号	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	2000~2001			
奈良国立文化財研究所年報2000-I~文化財学報第十七、十八集	奈良国立文化財研究所奈良大学文学部文化財学科	2000~1999~2000			
三重県					
第20回企画展平成12年度亀山市指定文化財新指定記念(前編)	亀山市歴史博物館	2001			
第20回企画展豊臣秀吉と亀山城主岡	〃	2001			
亀山市歴史博物館だよりVol.17	〃	2000			
東海道亀山宿史料集	〃	2000			
加藤秀繁日記三 〃2000	〃	2000			
亀山市歴史博物館研究紀要第3号	〃	2000			
多度町史民俗	多度町教育委員会	2000			
島根県					
寛平特別展「海」海流に乗った古代の恋物語甦える海を翔ける想い	島根県立八雲立つ風土器の丘資料館	1999			

平成12年度(2000年度)
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成13年10月31日

編集 日田市教育委員会

発行 〒877-8601

大分県日田市田島2-6-1

TEL 0973-23-3111

印刷 尾花印刷有限公司